香川大学法学部高校生懸賞論文2020

受賞作品集

香川大学法学部

香川大学法学部高校生懸賞論文 2020
受賞作品集

主催　香川大学法学部

後援　香川県
香川県教育委員会
高松市教育委員会
香川県弁護士会
四国新聞社
香川大学法学会
香川大学法学部後援会
四国グローバルリーガルセンター

受賞者

受賞者・教育長・審査員

目　次

・香川大学法学部高校生懸賞論文の作品集の発行にあたって …… 1

・高校生懸賞論文 2020 募集要項 …… 2

・高校生懸賞論文 2020 受賞作品一覧 …… 5

・最優秀賞
　メディア・リテラシーの重要性の高まり（西　晴楓）…… 7

・優秀賞
　「自覚」と「変革」～学校臨時休業期間に考えさせられたこと～
　（田尾朱莉）…… １１
　言葉のつながり（平井萌花）…… １７
　学校は何のためにあるのか（溝渕莉紗）…… ２０

・奨励賞
　コロナの影響による教育格差（池上　結）…… ２５
　これからの地域医療を考える（豊浦愛理）…… ３１
　未来の地域社会と私達（若宮　連）…… ３７
　コロナ禍をどう生きるか～ハンセン病と新型コロナウイルス～
　（岡野明莉）…… ４１
　コロナ禍での自分発見と挑戦する姿勢（三﨑もか）…… ４７
　感染症に負けないまちづくりを目指して（岡　千嘉）…… ５４

・作品の講評 …… ５９

・高校生懸賞論文 2019 募集要項・受賞作品一覧 …… ６４
・高校生懸賞論文 2018 募集概要・受賞作品一覧 …… ６６
・高校生懸賞論文 2017 募集概要・受賞作品一覧 …… ６８
・高校生懸賞論文 2016 募集概要・受賞作品一覧 …… ７０
・高校生懸賞論文 2015 募集概要・受賞作品一覧 …… ７２

香川大学法学部高校生懸賞論文の作品集の発行にあたって

香川大学法学部長　三野　靖

香川大学法学部高校生懸賞論文は、2015 年度から実施し、今年度で 6 回目になります。本事業は、県内大学等の活性化を図り、若者の県内定着を促進することを目的とする香川県の「香川県若者県内定着促進支援補助金」により採択された「魅力発信事業」の一環であり、香川県のご支援のもと実施できておりますことに、あらためてお礼を申しあげます。

本事業は、次のような趣旨で立ち上げました。大学は、主体的に学ぶ場です。そこでは、社会問題について、自ら情報を収集し、自分の意見を他人に伝えることが重要です。また、そのような姿勢は、大学での学びをこえて、視野を広げ、人生をより豊かにすることに繋がります。法学部では、授業や教科書から知識を得るだけではなく、裁判例や論文等の資料を収集し、思考することが求められます。そこで、高校生のみなさんの優れた成果を顕彰することで、能動的な学びを奨励すべく、論文を募集することとしました。また、懸賞論文を通して、法学への関心、ひいては香川大学法学部への志望のための動機に繋がれば幸いです。各年度の実施状況は次のとおりです。

2015 年度のテーマは、「私と憲法」、「少年法／少年非行に関する今日的課題」、「香川県における若者の定住化」で、応募作品 32 点、受賞作品 8 点でした。2016 年度のテーマは、「18 歳選挙権のもとで、政治とどう向き合うか」、「震災と地域社会・行政の課題」、「これからの家族制度」で、応募作品 34 点、受賞作品 9 点でした。2017 年度のテーマは、「魅力ある街づくり・地方創生に向けてなにができるか」、「君たちの東京オリンピックとは？」で、応募先品 43 点、受賞作品 10 点でした。2018 年度のテーマは、「SNS と私たち」、「グローバル社会の進展のなかで、あなたはなにを目指すのか」で、応募作品 63 点、受賞作品 14 点でした。2019 年度のテーマは、「子どもの権利が尊重される社会のために」、「香川県における公共交通機関のこれから」で、応募作品は 69 点、受賞作品 8 点でした。2020 年度のテーマは、新型コロナウイルスにまつわる社会状況の変化について考えるとして「学校臨時休業期間はあなたにとってどのような意味を持っていたか」、「将来の地域医療・福祉・行政を考える」で、応募作品は 108 点、受賞作品 10 点でした。また、論文の募集にあたっては、論文の構成要素、論文作成のルール、文章表現、資料の探し方等について示して、論文をあまり書いたことがない高校生でも書けるように配慮しています。受賞作品に選ばれることは名誉なことではありますが、本事業の趣旨にもあるとおり、論理的な思考のためのスキルを身に着け、自ら学ぶ姿勢・意欲を喚起することこそが、応募していただいた高校生にとって何よりの財産となるでしょう。

2020 年度の本事業の実施にあたり、植野剛香川県弁護士会弁護士、木原光治㈱四国新聞社広告局長、竹内麗子香川経済同友会特別幹事、井元多恵香川県教育委員会教育次長、川池秀文香川大学理事・副学長の皆様には審査にご協力いただきましたことをお礼申し上げます。

今後とも、本事業が高校生の皆さんの学びの糧となりますよう祈念いたします。

*Legal Mind*で世界とつながる
*香川*でみつけよう、*未来*を！

香川大学法学部　高校生懸賞論文 2020

大学は、主体的に学ぶ場です。そこでは、社会問題について自ら情報を収集し、自分の意見を他者に伝えることが重要です。また、そのような姿勢は、大学での学びをこえて視野を広げ、人生をより豊かにすることに繋がります。

法学部では、授業や教科書から知識を得るだけではなく、裁判例や論文等の資料を収集し、思考することが求められます。そこで香川大学法学部では、高校生のみなさんの優れた成果を顕彰することで、能動的な学びを奨励すべく、論文を募集します。

最優秀賞	**１名（賞状、盾、図書カード５万円分）**
優 秀 賞	**２名（賞状、図書カード３万円分）**
奨 励 賞	**若干名（賞状、図書カード５千円分）**

―募集要項―

（１）応募資格

香川県内の高等学校に在学中の者。
１人１作品まで、オリジナル・未発表のものに限ります。

（２）論文のテーマ

「新型コロナウイルスにまつわる社会状況の変化について考える」
次の観点から一つ選んでください。タイトルは自由です。
A　学校臨時休業期間はあなたにとってどのような意味を持っていたか（香川県教育長より出題）
B　将来の地域医療・福祉・行政を考える

（３）応募方法

【応募ファイル】
応募ファイルを、法学部ホームページよりダウンロードしてください。
応募ファイルの 1 ページ目に必要事項および選択したテーマの番号を記入し、2 ページ目の冒頭にタイトルを明記した上で、論文を作成してください。
論文は、A4 版用紙（30 字×40 行、10.5 ポイント、横書き）で、3,000 字程度で作成してください。図表は、文字数に含まれません。

【提出方法】
メールに、応募ファイルを添付して次の連絡先にお送りください。
件名は「高校生懸賞論文 2020　テーマ○（A,B のいずれか）」としてください。

香川大学法学部資料室「高校生懸賞論文 2020」
E-mail: kenshoronbun@jl.kagawa-u.ac.jp
（このメールアドレスへの特定電子メールの送信を拒否いたします）

＜個人情報の扱い＞
個人情報は、論文の審査・結果発表など本募集に関わる目的以外には利用しません。
入賞者のお名前、高等学校名、入賞作品および作品タイトルは、結果発表など本募集に関わる目的で香川大学ホームページ等に掲載・公表されます。あらかじめご了承ください。
表彰式で撮影した写真および入賞者のお写真は、本懸賞論文の広報に関わる目的で香川大学ホームページや本懸賞論文のポスター等に掲載される可能性があります。
＜応募作品の扱い＞
応募作品は、原則として返却しません。
応募作品の著作権は、香川大学法学部に帰属します。
入賞作品は、内容を変更しない程度の形式的な修正を加えた上で、香川大学法学部ホームページに掲載させていただきます。あらかじめご了承ください。

＜提出について＞

締切　令和２年９月24日（木）17：00必着

締め切りを過ぎたものは、一切受理しません。
応募ファイルおよび論文の不備（例として、貼り付けた図がずれて本文が一部読めない、応募ファイルの書式とは異なる設定で作成されている、文字化けして本文が読めないなど）がある場合には、評価に反映される場合があります。提出前に形式を確認してください。

（４）審査方法

学内審査委員（教員２名）、学外審査委員（４名）からなる香川大学懸賞論文審査委員会が、厳正かつ公平に審査します。

【審査のポイント】
①テーマについて十分に調べられているか。
②論理的で説得的に主張が述べられているか。
③高校生らしい、独創的でユニークな視点あるいは提言があるか。

（５）結果発表・表彰式

令和２年11月中旬に、香川大学法学部ホームページにて発表します。
表彰式は、**令和２年12月19日（土）**に行う予定です。

お問い合わせ先

香川大学法学部資料室「高校生懸賞論文2020」係
代表電話：087-832-1744（平日９時から17時まで）
Ｅ－ｍａｉｌ：kenshoronbun@jl.kagawa-u.ac.jp
（このメールアドレスへの特定電子メールの送信を拒否いたします）
＊8月11日（火）～17日（月）は大学夏季一斉休暇のため、すぐにご返事できません。あらかじめご了承ください。

主催　香川大学法学部
後援　香川県、香川県教育委員会、高松市教育委員会、香川県弁護士会、四国新聞社、香川大学法学会、香川大学法学部後援会、四国グローバルリーガルセンター

KAGAWA UNIVERSITY

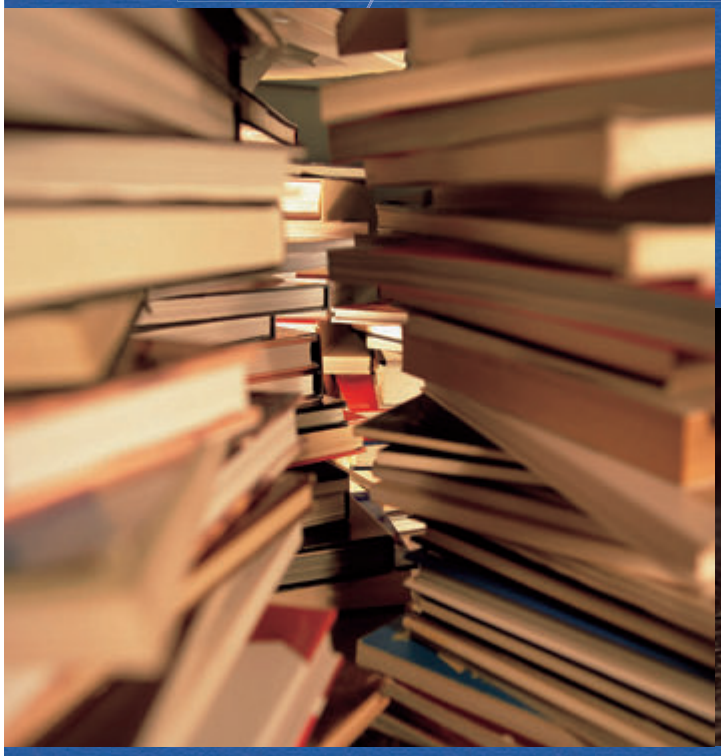
香川大学法学部 高校生懸賞論文2020

新型コロナウイルスにまつわる社会状況の変化について考える

次のテーマから1つ選んでください。タイトルは自由です。

A 学校臨時休業期間はあなたにとってどのような意味を持っていたか

B 将来の地域医療・福祉・行政を考える



最優秀賞	1名（盾、図書カード5万円分）
優秀賞	2名（図書カード3万円分）
奨励賞	若干名（図書カード5千円分）

応募締切
2020年9月24日（木）17：00必着

応募資格
香川県内の高等学校に在学中の者

応募方法・その他
法学部ホームページ（https://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_jl/）を参照してください。

問い合わせ先 ――香川大学法学部資料室「高校生懸賞論文2020」係
代表電話 ――087－832－1744
（平日9時から17時まで、8月11日（火）～17日（月）は夏季一斉休暇のため、すぐにご返事できません。あらかじめご了承ください）
E-mail ――kenshoronbun@jl.kagawa-u.ac.jp（このメールアドレスへの特定電子メールの送信を拒否いたします）

主催　香川大学法学部
後援　香川県、香川県教育委員会、高松市教育委員会、香川県弁護士会、四国新聞社、香川大学法学会、香川大学法学部後援会、四国グローバルリーガルセンター

香川大学法学部高校生懸賞論文 2020 受賞作品

◆最優秀賞◆

『メディア・リテラシーの重要性の高まり』
香川県立観音寺第一高等学校１年　　西　　晴楓

◆優秀賞◆

『「自覚」と「変革」～学校臨時休業期間に考えさせられたこと～』
香川県立観音寺第一高等学校１年　　田尾　明莉

『言葉のつながり』
香川県立観音寺第一高等学校１年　　平井　萌花

『学校は何のためにあるのか』
香川県立高松高等学校１年　　溝渕　莉紗

◆奨励賞◆

『コロナの影響による教育格差』
香川県立観音寺第一高等学校１年　　池上　　結

『これからの地域医療を考える』
香川県立観音寺第一高等学校１年　　豊浦　愛理

『未来の地域社会と私達』
香川県立観音寺第一高等学校１年　　若宮　　連

『コロナ禍をどう生きるか～ハンセン病と新型コロナウイルス～』
香川県立高松高等学校２年　　岡野　明莉

『コロナ禍での自分発見と挑戦する姿勢』
高松第一高等学校１年　　三﨑　もか

『感染症に負けないまちづくりを目指して』
大手前高松高等学校２年　　岡　　千嘉

※同賞内は受付順

最 優 秀 賞

メディア・リテラシーの重要性の高まり

香川県立観音寺第一高等学校１年　西　晴楓

今年２月、新型コロナウイルス感染症対策本部により、全国の小中学校、特別支援学校に３月２日から春休みの期間、臨時休校することを要請された。その後、緊急事態宣言が発令され、5 月 31 日まで延長される事態となった。この学校臨時休業期間で私が実感したことはメディア・リテラシーの重要性である。

そもそもメディア・リテラシーとは、インターネットや新聞、テレビ等が発信する情報見極め、理解・活用する能力をいう。IT による情報化やソーシャルメディア等の登場により情報量は日々増え続けており、容易に情報を手に入れることができるようになった。それに伴い、その情報の正誤を見極めることや、メディアの情報を鵜呑みにしないことが大切になってくる。すなわち、情報を理解し、活用するためにはファクトチェック（事実確認）をすることが不可欠となる。私たちは、この能力を身につけなければならない。

こうしたファクトチェックの能力を身につける手段として、私は二つの方法を提案したい。一つ目はフェイクニュースに共通する特徴を知ること、二つ目は 5W1H を確認し、情報の発信者の意図を汲み取ることである。

新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い、様々なフェイクニュースが飛び交った。例えば、トイレットペーパー品薄騒動である。このとき、SNS 上で拡散された「中国から原材料が輸入できなくなる」との虚偽情報が拡散され、人々はパニック状態に陥った。その結果、紙製品の買い占めが起こり、トイレットペーパーやティッシュペーパーが品薄状態となった。これはフェイクニュースが、社会不安やパニックを招いた典型的な事例である。感染の恐怖から人々は情報に踊らされていたのだ。この騒動以外にも、「4 月 1 日にロックダウン（都市閉鎖）する」と書かれたものが、3 月下旬からチェーンメールのように拡散された。

これらの虚偽報道の中身には、いくつかの共通した特徴が見られる。まずは「経路」について、SNS 等のインターネットを介して拡散されることが多い。これは一般人も自由に情報を受信、発信できるようになった現代の特性であるとも言える。次に、もっともらしく危機感を煽るような「内容」である。トイレットペーパーがなくなる、や都市が封鎖されるといったわかりやすく、かつ派手な「内容」は拡散力を持つ。またその内容に、トイレットペーパーを買い溜めしておくべきである等、何をすべきなのか明確にした「行動指針」を含むことで、善意による拡散が行われることとなる。そして、マスコミ、医者や看護師など、それらしい人が言っているようだが、名前などは特定されていない曖昧な「情報源」である。これも匿名性の高い SNS 等でのネット情報ならではの特性であると言える。これらの特徴を把握しておくことは、情報を入手した場合に、それが虚偽報道であるかどうかを判断するための最初の手がかりとなる。すなわち、これらの特徴を全て、あるいは

大部分を有している情報は、極めて慎重に扱うべき情報であると言える。

また、情報とは、必ず発信者がいる。そこで、5W1H、すなわち、いつ、どこで、だれが、なぜ、なにを、どのように発信しているかという情報の要素を確定し、そこから発信者の意図を探ることで、情報の真実性に近づくことができる。

例えば、トイレットペーパー品薄騒動であれば、新型コロナウイルスの感染拡大初期である3月（いつ）、鳥取県において（どこ）、インターネットの匿名者が（だれ）、誰でも自由に発信でき、虚偽か真実かを確定することが困難なSNS上の呟きによって（どのように）、紙製品の原材料の入手困難及び、それによる紙製品の品不足（なにを）、について発信した。情報が発信された理由は明らかではない。しかし、対策が講じられていない感染症の拡大期は、人々が、様々な情報に踊らされやすい時期と言える。そのような時期に、真実性を確認することが困難なSNS上の呟きにおいて、紙製品製造業者といった紙製品に関する情報を確実に有していると確定できない匿名者によって発信されたこの情報が、信頼に値するものであるか。このように情報の5W1Hを分析すればその信頼性は自ずと見えてくる。私たちは、こうした情報に対する冷静な分析態度が求められているのだ。

では、上記のような、虚偽報道の特徴を確定する、情報の5W1Hを分析するといった冷静な態度を欠くと、何が起こるだろうか。今年5月23日、木村花さんの自殺が報道された。木村さんはテレビ番組「テラスハウス」に出演しており、番組内での言動に対し、一部の人がSNSで誹謗中傷し、精神的に追い詰められたとされている。番組はリアリティ番組として作られた日常であり、一部を切り取って放送されていた。すなわち、彼女の番組内の言動は、冷静に分析すれば、番組作成者が（だれが）、視聴率の獲得を最終目的として（なぜ）、リアリティ番組として発信（どのように）していた情報であった。これを踏まえれば、彼女の番組内での言動は、番組構成上のものであり、彼女の人格を忠実に反映したものとは言い切れないことは明らかである。しかし、人々はその番組を見ただけで彼女の人格を理解したと錯覚し、誹謗中傷に至り、そして彼女は追い込まれた。これは、メディア・リテラシーを身につけていなかった人々の発信した発言が引き起こした事態であった。誹謗中傷がいくつも重なり受け手にのしかかっていった今回の事態は、ソーシャルメディアの一つであるSNSが身近になった私たちが決して目を背けてはならない現実である。

さらに事態を加速させたのは、新型コロナウイルスではないのか。現代においては、情報は一方通行ではない。情報に踊らされたものが、情報を発信する側に回れば、次の受け手を傷つけ、さらなる虚偽情報の拡散の一翼を担うこととなるのだ。新型コロナウイルス感染症拡大による自粛期間において、多くの人がストレスを溜める一方、家で過ごす時間が増え、SNSやネットを使用する頻度が増えることで、こうした虚偽報道の拡散や、SNSでの誹謗中傷の書き込みはより加速し、顕在化したと考えられる。

こうした事態を防ぐにはどうすればよいか。二度と不明確な情報に基づいた騒動を起こさないために、二度と他者を何があっても自殺に追い込まないために、私たちにできることは明らかである。新型コロナウイルス終息の行方が明確ではない今だからこそ、今一度、

「経路」、「内容」、「行動指針」、「情報源」といった虚偽報道の特徴を確認し、入手した情報の 5W1H を分析し、情報の受け手としても送り手としても、適切に情報と向き合う能力を身につけていきたい。

この学校臨時休業期間は、私にとって、今まで自分自身もあまり意識していなかったメディア・リテラシーの重要性について考える意味を持っていた。

【参考文献】

日本経済新聞
https://www.nikkei.com/article/DGXMZO56131560X20C20A2MM8000/

新型コロナウイルスのデマ・フェイクニュースを見分けるには？｜ハルメク
https://halmek.co.jp/culture/c/ccolumn/2145

News Up 木村花さんの死が問いかけるもの｜NHK ニュース
https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200604/k10012457591000.html

優 秀 賞

「自覚」と「変革」～学校臨時休業期間に考えさせられたこと～

香川県立観音寺第一高等学校１年　田尾朱莉

アブストラクト：新型コロナウイルスによって、これまでの日常が変わろうとしている。国が行った感染拡大対策は、医療崩壊こそ回避できたが、経済損失や、風評被害による混乱、コロナ差別へと予想外の影響が広がっている。見えないウイルスへの恐怖、無症状患者からの感染被害も多く、対人関係や家庭生活もが変わろうとしている。不要不急による外出自粛要請は、個人のモラルによる判断となる。ここに風評や差別に繋がる要素があると考えた。人それぞれの価値観や、お互いの利害関係にズレがあるからだ。大切な人を守りたいと思う気持ちは同じはずなのに、つい出来の悪い人と自分を見比べてしまう。ウィズコロナ・アフターコロナと向き合う私たち世代には、「謙虚さ」や「思いやり」が足りていない。この危機を乗り越えるために、自らが足りていないものを自覚し、変革すべき時代（とき）が来たのではないだろうか。

キーワード：新型コロナウイルス，パンデミック，インフォデミック，コロナ差別，社会人基礎力，人間力

1.　はじめに

新型コロナウイルスによって、これまでの日常が大きく変わろうとしている。今もなお、感染拡大は衰えを見せず、先行きすら見えない状況である。半年前に中国の武漢で新型ウイルスが発見された時、この様な事態になると想像できただろうか。ウイルス発見から数日後には国内でも新規感染者が報告され、今ではニュースやネットなどの情報を確認することで、感染予防のための自己管理が習慣となっている。

国内では、感染拡大予防のための緊急事態宣言、三密（密閉・密集・密接）の回避、外出自粛要請などの対策により、急速な拡大は一時的に回避できた。感染拡大による医療崩壊の回避や、病床数の確保、PCR 検査環境の整備に要する時間を確保する必要があった。

しかし、緊急事態宣言解除後における人々の意識・行動に格差が生じているように思える。ウイルス感染による直接的な被害（死亡・重症化・後遺症など）もあるが、間接的な被害（経済損失・風評被害・差別など）が大きな課題である。なかでも、自粛警察といった正義を振りかざしたコロナ差別や、不要不急の外出自粛に対する人の捉え方には個人差があるようだ。

本章では、これからのウィズコロナ時代を生き抜くために、私たち世代が取り組むべき課題について考察する。新しい生活様式・ネットなどの情報化社会へ健全な対応をしていくために必要とされる能力とはどの様なものか。自分に足りていない課題を自覚し、自らが変革することよって、この危機的な状況を一緒に乗り越えていこう。

2.　新型コロナウイルスが社会に与えた影響

2.1　社会状況の変化

新型コロナウイルスの累計感染者は、世界人口 77 億人の中で現在 2,100 万人、亡くなった人は 75 万人を超え、今も増えている状況である。約 100 年前のスペイン風邪では、世界人口の 1/3 以上が感染し、数千万以上の死者がいたようだ。その際の感染拡大の原因も新型コロナウイルスと同じ接触による集団感染とされている。

情報化社会である現在は、感染者・死者数などの状況・対策がリアルに情報共有ができる。これによると、以前と比べ感染拡大は抑え込めているようであるが、別に課題があるようだ。人類はこれまでにも幾度となく感染症のパンデミックを経験しているが、これまでの感染被害との違いは何か。ロックダウンによる首都閉鎖や、緊急事態宣言の必要性についても調べてみた。

2.1.1　新型コロナウイルス感染の特徴

新型コロナウイルスは、感染してから症状が現れるまで 1 週間程度かかり、症状が現れるまでにも人に感染するといった特徴がある。図 1 の感染者状況を見ても分かる通り、軽症・無症状の患者が 8 割以上を占めており、無意識のうちに感染を広げていると予想できる。特に、高齢者や基礎疾患を持った患者へ感染すると重症化・死亡率が高い。

軽症・無症状の患者が多いことから、拡大予防の隔離が難しいとされている。効果的な予防ワクチンもなく、十分な検査環境も整っていない状況のところもあり、医療崩壊を回避するために、感染拡大の封じ込めにロックダウンや緊急事態宣言が手段として用いられた。

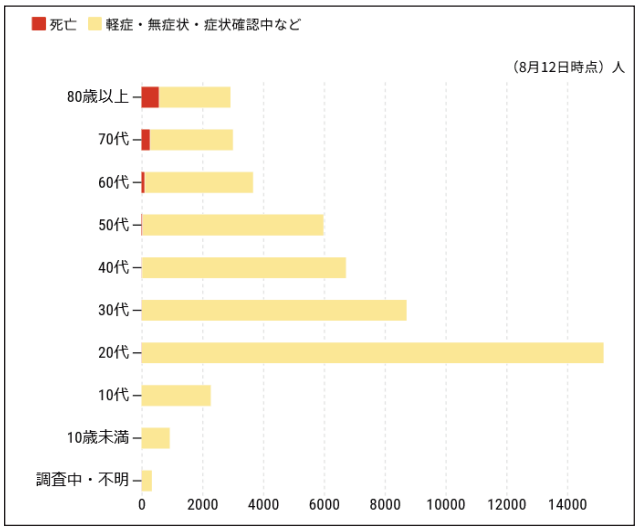


図 1　国内年代別の感染者状況　＜日本経済新聞のホームページより＞

2.1.2　インフォデミックによる恐怖

新型コロナウイルス感染の脅威は、感染被害以外にも起こっているようだ。緊急事態宣言の解除後には、感染被害が多い地域からの移動や、感染拡大のリスクが高いイベント、感染者を出したとされるお店などの情報が SNS 上で拡散し、誹謗中傷や風評被害として炎上している。先行きの見えない恐怖から、噂やデマなどによるインフォデミックが発生しているといえる。マスクやトイレットペーパーなどの品不足もその例にあたる。

現代社会を支えている情報インフラが、ウイルス感染被害と同時に社会や経済に大きな影響を及ぼしている。この背景には、責任意識のない情報発信や、人とのコミュニケーションに SNS などのネット環境を使ってきた現代人の課題ではないかと考える。

3.　新しい生活様式と現代人に求められる能力

3.1　新しい生活様式の変化

感染防止のために飛沫を避けられる距離の確保、クリアパネルなどによる壁が設けられ、ソーシャルディスタンスが日常に加わった。学校や会社でも在宅からのテレワークが次第に増え、これまで以上に、ネットによる人とのコミュニケーションが多くなると予想する。

しかし、新しい生活様式も被害者意識が高い人ほどストレスとなり、強い強制力ほど反発力も大きくなるのではと考える。最近のネットやニュースでは、盗難被害や、悪質なイタズラ、DV 被害、禁止区域での違法行為などがメディアなどで報道されている。なぜ、そのような問題が起こるのだろうか。

3.1.1　コロナ被害者の思考

加害者のいないパンデミックなのだが、なぜ被害者の意識を持つようになるのだろうか。始めは、不要不急の外出自粛要請といった小さな事でも、他人との価値観の違いが不満に変わり、最後には誹謗中傷や差別などの行為に及んだのではないかと考える。

自ら考えて外出自粛しておらず、誰かのために自粛をしてあげていると考えると不満に変わるのも分からなくもない。だが、間違えてはいけないのは、「誰かのためにしてあげている」ではなく、自らがすべきことを考え・行動する力が必要なのではないだろうか。

3.1.2　現代人に求められる能力

新型コロナウイルス感染から始まった今の危機的状況は、この先も影響してくると考える。私たち学生にとっては、将来の就職活動や進学にも関係するだろう。新しい生活様式に変わった後に必要とされる職業や人材、必要とされる能力とはどのようなものかを調べてみた。

次の表 2 は、地域社会や企業が社会人となる学生に求めている能力について意識調査し

た内容である。3 つの能力と 12 の能力要素が挙げられているが、ウィズコロナに立ち向かう私たちの世代に必要な能力と同じではないだろうか。

表 2　社会人基礎力とは　＜経済産業省のホームページより＞

能力	能力要素	説明
前に踏み出す力（アクション）	主体性	物事に進んで取り組む力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	実行力	目標を設定し確実に実行する力
考え抜く力（シンキング）	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	創造力	新しい価値を生み出す力
チームで働く力（チームワーク）	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	情況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

4.　これから取り組むべき課題

地域社会や企業の採用担当者が学生に足りないと感じている能力は、「粘り強さ」・「チームワーク力」・「主体性」・「コミュニケーション力」などの社会人基礎力だと報告されている。一方で、学生側は、社会人基礎力よりも専門知識が足りていないと答えており、双方で足りないと思う内容が異なっている。何が足りていないと感じる要因なのかを調べてみた。

図 2 は、経済産業省の「社会人基礎力」と「人間力」の関係図になっている。双方で足りていないと感じる要因は、土台となる人間性や基本的な生活習慣にあるのではないだろうか。

この先、感染予防のワクチンや治療薬が完成すれば、死者や重症患者は減るだろう。しかし、風評被害、コロナ差別といった人間関係を犯す行為は、私たち自らが意識改革をしないと無くならない。相手を思いやること、自分に対して謙虚さを持つことが社会人基礎力の土台となり、地域社会や企業が求める人材に近づくはずだ。

思いやりを持って主体的に行動し、謙虚さを持って粘り強く継続し続けることが、ウィ

ズコロナ時代を生き抜くための私たち世代が取り組むべき課題である。ソーシャルディスタンスによる人との距離も、思いやりがあればネット社会の情報インフラで、その距離も無くせるはずだ。

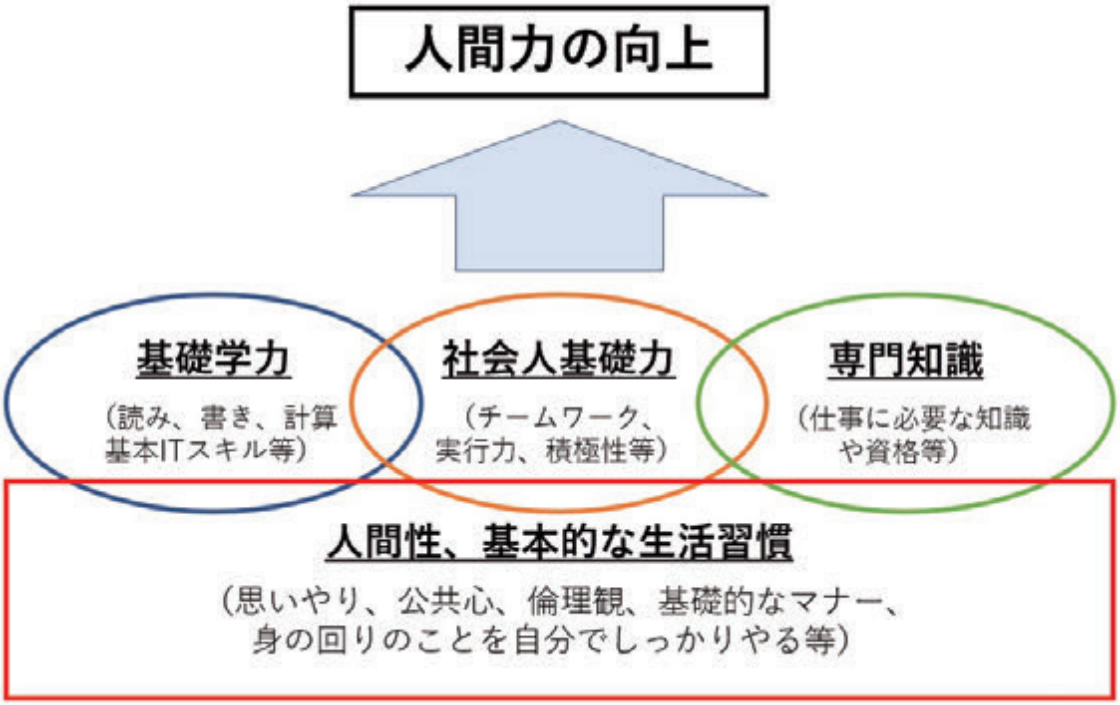


図２　社会人基礎力と人間力の向上イメージ

5.　おわりに

私は、新型コロナウイルス感染予防対策の外出自粛期間に、色々な出来事・体験があった。一番に残念だったことは、突然の病で亡くなられた恩師の葬儀に参列できなかったことだ。勉強以外でも音楽などの共通の趣味があり、色々な話をさせて頂いたことを今も思い出す。東京に単身赴任で暮らす父親とも、半年以上会えていない。父もできることなら帰りたいはずだが、自分がもし移動中に感染して故郷にコロナを持ち帰ってしまったらと母親と電話で話していた。家族を守りたいと思う気持ちが、そうさせているのだと感じた。

常に相手を思いやり、自分に対し謙虚にあり続けることは容易なことではない。しかし、人に感謝する気持ち、人の痛みがわかるような経験を繰り返すことで、思いやりや、謙虚さは身に付くのだと恩師や父に教えられた。

失敗を恐れず、自分で判断し行動することの大切さ、失敗しながらも積み重ねた経験が、深みのある人間なのだと教えられてきたことを思い出した。自らが足りないものを自覚し、自分を変えることによって、少しずつ周りも変えていけるのではないだろうか。

一人でも多くの人に共感してもらえれば、きっと住みやすい世の中になることを願う。

引用文献・参考資料

[1]　日本経済新聞　（2020 年 8 月 12 日）世界全体の累計感染者数
https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/coronavirus-chart-list/　（2020 年 8 月 15 日閲覧）
[2]　日本経済新聞　（2020 年 8 月 12 日）年代別の感染状況
https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/coronavirus-japan-chart/#d1　（2020 年 8 月 15 日閲覧）
[3]　経済産業省　（2018 年 3 月 19 日）　「人生 100 年時代の社会人基礎力」
https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html　（2020 年 8 月 15 日閲覧）
[4]　西日本新聞　（2020 年 5 月 13 日）　他県ナンバー狩り、ネットで中傷…暴走する自粛ポリス https://www.nishinippon.co.jp/item/n/607787/　（2020 年 8 月 23 日閲覧）
[5]　マイキャリアスタイル　（2019 年 5 月 22 日）　経済産業省が提唱する「社会人基礎力」とは？
http://blog.link-academy.co.jp/carreer/3526.html　（2020 年 8 月 23 日閲覧）
[6]　日本経済新聞　（2020 年 8 月 21 日）　経済チャートで見る新型コロナショック
https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/coronavirus-economy/　（2020 年 8 月 23 日閲覧）

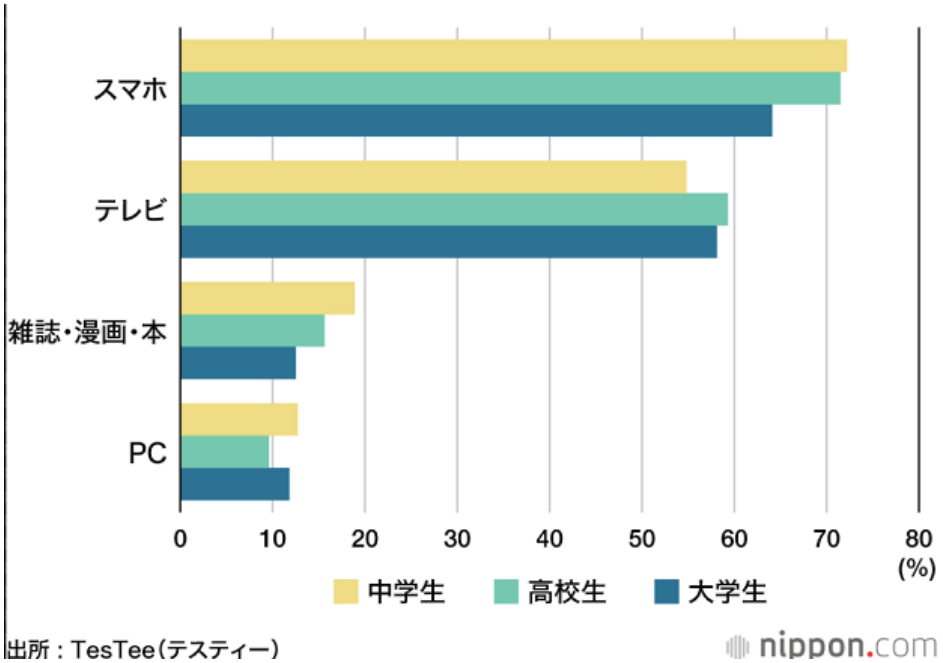
言葉のつながり

香川県立観音寺第一高等学校１年　平井萌花

正直、初めは学校を休める事、休業になった事を単純に嬉しい、ラッキーとプラスにしか捉えていなかった。どうして？と疑問に思う人も中にはいるだろう。疑問に思った人は皆きっと「このクラスで過ごす時間も残り少ないのに。」とか「折角、入学したのに。」とか考えてるに違いない。周りの人ではなくて貴方は？と思われてもおかしくないな、という文になってきている為、何故私が休業期間を嬉しいと感じたのか一言で述べたいと思う。ずばり、「人間関係」だ。

私は、人見知りで自分から話しかけることが苦手なのだ。しかも今年高校に入学したためクラスに知り合いなどはほとんどおらず、より一層話しかけるなんてできる状態ではなかった。周りを誰にも気付かれないように見てみると、予防のためのマスクをしていてどんな人なのか全くわからない。眼を飛ばしているように見えた人もいてとにかく怖く「どうしよう。もしかしたら高校で友達できないかも。」と思った。そんな不安と新しい環境への緊張に押しつぶされていたとき、まるで私の心を汲み取ってくれるかのように休業の話が入ってきた。新型コロナウイルスに感謝の気持ちすら抱いてしまうくらいだった。「ああ、これで人と関わらなくて済むし、周りに気を配る必要もない。」と心の底からホッとした。これが当時の心境だ。

休業期間に入ると、好きな時間に起床し、テレビやスマートフォンで娯楽を楽しみ、好きなものを食べ、たまに課題に手を付け、また娯楽に戻り、眠くなったところで寝る、という充実した毎日を送った。ここで私は娯楽の部分に着目した。下記のグラフを見てほしい。



このグラフは休業期間中に利用＆視聴が増えた媒体について小中高生別に調査したものである。グラフから休業期間中に一番利用が増えた媒体はスマホであることが読み取れる。休業期間中は自由に時間が使える為、いつでも手元にあるスマホの利用が増えたのだろう。私自身、SNS とつながる時間が格段に増えたと感じている。

SNS とつながる時間が増えるとどうなるか。私の場合、Instgram を特に利用することが多かったのだが、クラスの子や同じ高校に通っている同級生を見つけフォローしたり逆にフォローリクエストが来たりすると、それをきっかけに DM で挨拶をし、そこから話を広げることができた。あれほどまでに嫌だった「人に話しかける」という行為が SNS を通してならいとも簡単にできるのだ。SNS だと気を張ることなくリラックスして会話を楽しむことができるからだろう。そうしていくうちにどんどん相手と仲良くなれ、仲良くなった子の友達、さらにはその友達と人脈も驚くほど広がった。その結果、新型コロナウイルスに感謝の気持ちを抱いてしまうくらい喜びを感じていた休業期間に対して、仲良くなれた子に直接会いたいから早く終わってほしいと真逆の気持ちを抱くようになった。そして休業明けの登校日には、DM で話した他のクラスの子と挨拶を交わすことができたり、少しではあるもののクラスの子に話しかけることができたりと休業前よりも「人間関係」についての不安が薄れていることを実感した。

学校にも慣れ、友達ができ、だんだんと仲良くなるにつれ入学時の事についても話すようになった。その中には入学当初、眼を飛ばしているような目つきをしていて怖いなと思っていた子もいた。そこで私は、その子にこのように話した。「初めて見たとき、めっちゃにらまれとるみたいで怖かったんやけど。」と。するとその子は、「緊張しとってさ、後どんな子がおるんやろってみよったんやと思う。にらんどるつもりは全くなかったんやけどな・・・。」と答えた。私はそこではっとした。この子も私と同じでただ緊張していただけだったのだと。私は、話したこともない周りの人を勝手に怖い人達だと思い込み、自分が話しかけられない理由にし、人見知りだからと自分を正当化して、自分から、周りから、人間関係から逃げていたのだと。大切なのは、始めから逃げるのではなくたとえ失敗したとしても良いという気持ちを持って自分から挑むことで、それをすることにより相手の知らなかった所を知れたり、初めに感じた相手の印象を変えたりできるのだと。いま述べたことに気付けたのも、休業期間中に SNS を通して「人に話しかける」「人とつながる」ということができたからだと思う。SNS がそれに気付くきっかけを与えてくれたのである。私のように、人に直接「話しかける」のが苦手な人でも SNS でなら「話しかける」ことができるという人は多いはずだ。SNS がなければきっと休業期間中に誰かに話しかけることも誰かと話すこともなく、ずっと「人間関係」について不安を抱いたまま人生を歩むことになっていたと思う。SNS があったからこそ私は人と積極的に関わることができるようになったのだ。私にとってこの学校臨時休業期間は、人との関わり方について考え直すきっかけをくれた良い時間であった。

新型コロナウイルスが日本中に、そして世界中に大きな衝撃をはしらせる中で SNS は切

り離すことのできないものだっただろう。いや、今現在も、だ。たくさんの人が SNS での励ましや、芸能人たちによる SNS 上でのプロジェクトに助けられた。私もその一人だ。だがその反対に、誹謗中傷によって傷つけられている人も大勢いるのが事実である。このことからもわかるように SNS、つまり言葉というのは花束にも刃にもなるのだ。誹謗中傷の大抵は、情報が一部切り取られ、間違った情報として広まり、それを人々が信じることによって起こるものだと考える。このようなことが毎日のように繰り返し起こるのは私がきちんと本人から聞いてもいないのににらんでいると思ったのと同じで、自分が見たものをすべて正しいと思い込むことが原因だと思う。きちんと話したり、間違っているかもと他の記事を読んだりするなどしないと、相手の事そして正解というのは分からないのだ。これは、今この状況になっているからこそ改めて考えることができた事でこんなにも当たり前の事なのに忘れてしまっていた事なのだ。

この論文を書いている今、私が思っているのはただ一つだ。それは、言葉の花束を増やすという事。そのためには、「自分から動く」という気持ちを一人一人が持たなければならない。自分からという気持ちを忘れずに、人に話しかけたり、SNS の全てが正しいとは思わずに自分で考え、本当の正解を追い求めようとしたりすることで、自分も、周りも、日本も、世界もより輝くのではないだろうか。言葉のつながりによって生み出されていく素敵な花束を私は見たい。そしてまた、自分も誰かに花束を贈りたい。この論文を読んでくれた人が一人でも多く SNS について、言葉について考え直し、日本中、世界中が素敵な花束で溢れれば良いなと願っている。

学校は何のためにあるのか

香川県立高松高等学校１年　溝渕莉紗

新型コロナウィルスの影響で学校が臨時休業した期間、「学校は何のためにあるのか」、その存在意義を問い直す機会になった。

近代の学校制度が始まって以来およそ 150 年。その制度はほとんど変わることなく、これまで次のようなものとして続いてきた。すなわち「みんなで同じことを、同じペースで、同じようなやり方で、学年学級制の中で、あらかじめ用意された問いと答えを勉強する」という制度だ。しかしこのコロナ禍の真っただ中にあっては、それはほとんど機能しなくなってしまった。

私は以前からこのような一斉一律の学校での学びに対して疑問を持ち続けてきた。なぜなら「みんなで同じことを、同じペースで」進めていくと必ず授業についていけない生徒が出てしまう。それとは反対に、すでに授業の内容が分かっているにもかかわらず、先へ進むことができないために学校の授業がもの足りなくなってしまう生徒も少なくはない。さらには、何のためにこんな勉強をしなければならないのか分からず、学ぶことから逃げ出したいと思っている生徒が多く存在することを実感してきた。加えて学年学級制に起因する、いじめや空気を読み合う人間関係から、不登校や引きこもりの事例が後を絶たないことを問題視されてきた。

今回コロナ禍での学校臨時休業期間、私たちは「授業」の代わりに出された「課題」の山に圧倒された。授業を受けられない状況下でそれを自らコツコツこなすというのは至難の業だった。そして休校期間が長くなればなるほど、気持ちに変化が出てきた。

私はこの春、期待を胸にふくらませ高校に入学したものの、クラスメイトの顔の半分はマスクに覆われ、顔と名前を覚える間もなく休校になったため、どこか孤立したような気にさえなった。

新型コロナウイルスの影響による気持ちの変化について、高校生を対象にしたアンケートによると、「時間にゆとりができた」など前向きな意見がある一方で、「学校がないと勉強していても集中力が続かない、なかなかやる気が出ない、強制されることでしていたことに気が付いた」、「学校は勉強だけでなく、生活リズムや人間関係をつくってくれる役割があると気づいた」、「この期間の勉強で休み明けの学力に差がつくと思った」など、不安要素が大きく占め、学校が休校になってはじめてその存在意義に気づかされた学生は少なくなかったようだ。

《高校生》新型コロナウイルスの影響による気持ちの変化

順位	男性 (n=455)	
1	やる気が起きないことが増えた	38.0%
2	今まで時間がなくできなかったことをするよい機会だと感じるようになった	27.3%
3	ひとりの時間ができて気楽と感じるようになった	25.9%
4	時間にゆとりができてうれしいと感じるようになった	22.6%
5	さみしさ・孤独を感じることが増えた	20.7%

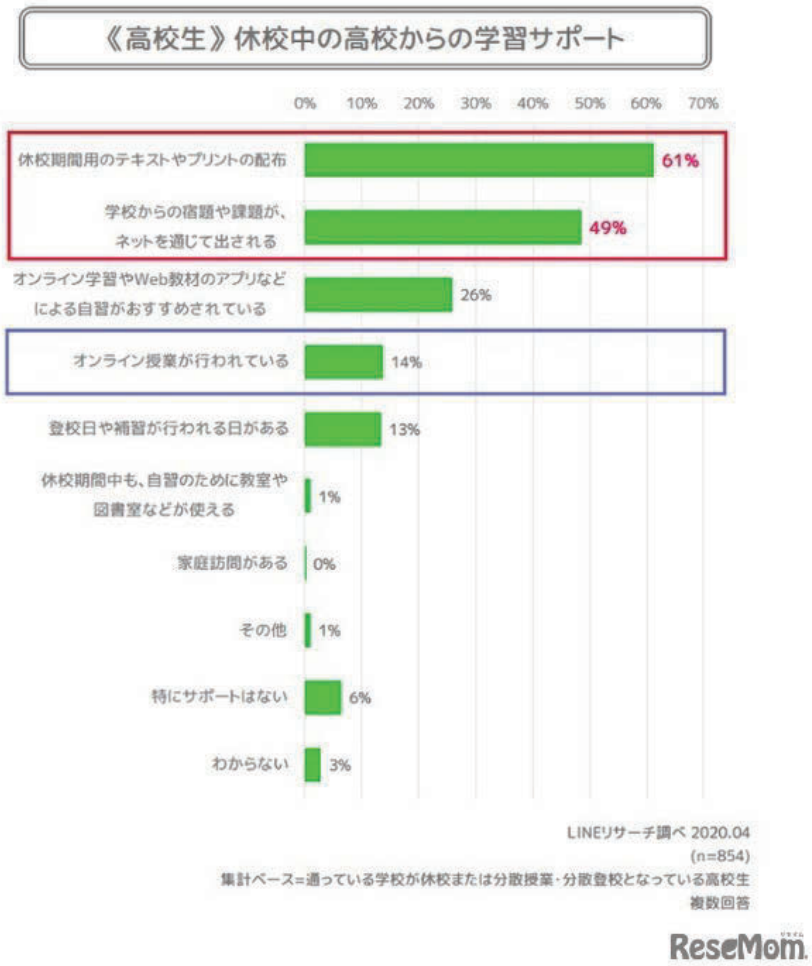
順位	女性 (n=455)	
1	やる気が起きないことが増えた	53.4%
2	今まで時間がなくできなかったことをするよい機会だと感じるようになった	38.7%
3	時間にゆとりができてうれしいと感じるようになった	37.4%
4	不安を感じることが増えた	34.5%
5	ひとりの時間ができて気楽と感じるようになった	30.3%

LINEリサーチ調べ 2020.04
複数回答
※上位5項目を掲載

ReseMom

こうした状況の中、国や自治体も授業のオンライン化を推奨したが、コロナによる休校中のオンライン授業への対応は全体の 14%にとどまっていることが調査結果から明らかになった。しかもその大半は私立学校が占め、公立学校での授業のオンライン化はなかなか進んでいない。

香川県においても、再度感染者の増加による臨時休業などに備えて遠隔授業などにも対応できるよう、県立学校における ICT 環境の整備に積極的に取り組んでいる。まずは県内の公立小中学校の生徒に 1 人 1 台のタブレット端末を配備することが決まっているが、現状としては家庭の ICT 環境による不平などに対応策が必要になるなど、オンライン学習を始めるための課題が山積していて、実用化に至るまでの道のりは遠く、あくまでも準備段階に過ぎない。



＜高校生編＞休校中の高校からの学習サポート

そこで本題の「学校は何のためにあるのか」について考えてみたいと思う。学校は、すべての学生が「自由」に、つまり「生きたいように生きられる」ための力を育むために存在していると言えるのではないだろうか。「自由」とはいえ、それはわがまま放題を意味するわけではない。なぜなら、「自分は自由だ、何をやるのも勝手だ」と主張していたら、それは他者の自由とぶつかることになり、争いになり、結局はお互いの自由を奪い合うことになってしまうからだ。そこで私たちは自らが「自由」に生きられるためには、他者の「自由」もまた認める必要がある。つまり「自由」を自他ともに認めることこそ、学校で学ぶべき最も重要な本質だと考える。これは私たちがくらす市民社会、民主主義社会の根本原理でもある。私たちの社会は、誰もが他者の自由を侵害しない限り自由に生きること

が許され、そのような自由をお互いに認め合うことで、皆が自由に平和に生きられることを保障されている。

これまで人類は長い歴史の中で、宗教が違えば虐殺し、人種が違えば奴隷にしてきた。現在、香港で起きている民主化運動では、民衆が命がけで「自由」を勝ち取ろうとするその光景は、テレビやインターネットの配信によって世界中の人びとに大きな衝撃を与えた。そしてアメリカやイギリスなど諸外国が香港の民衆を支持している背景には、「自由」を自他ともに認めることは宗教や人種、さらには国境を越えて多くの人びとに共有され、これに基づく民主主義が世界中に広がっていることがあげられる。その過程において、学校教育を通して私たちは誰もが対等な人間同士であるということを学んできたとしたら、それはきわめて重要な役割を果たしたと言えるだろう。これは 2〜3 世紀前まではほとんど誰も想像すらできなかったような奇跡なのである。

ところが今、先に述べたように学校は落ちこぼれやいじめ、あるいは不登校など、大きな問題をいくつも抱えている。さらに今回のコロナ禍において、一律一斉の教育により教育を受ける権利さえ奪われようとしている。

では、どうすればよいか。それは自分に合ったペースや学び方で学びを進めることに解決の糸口がみえる。ただしそれは、不安要素にあふれた学びの孤立化であってはならない。生徒が必要に応じて先生や先輩、友人など人に力を貸してもらえたり、人に力を貸したりできる、そのような学びの環境を作ることが重要になってくる。

今回、オンライン授業そのものの必要性が明確化したことで環境が整いつつある。しかし毎日、学校に行くことに大切な意義があり、オンラインでは得られないものがそこに存在する。たとえば部活動や学校行事をとおして、一つの目標に向かってみんなと連帯して努力したり、非日常の経験を積んだりすることは私たち学生が社会性を身につける貴重な機会になる。換言すれば、生徒が先生や友達との接触なく人間として成長することは考えにくい。オンラインでつながればいいという考えもあるが、実際、ふれあいの中で培われた社会性が根底にあって、はじめてそれが可能になる。今後、コロナによる影響が長期化するならば、学習をどのように進めるのかという方法論ばかり議論されるのではなく、オンラインでは得られない部分に残された問題を避けては通れないだろう。

そして、これからの時代、あらかじめ用意された問いと答えを教わる学びではなく、「自分たちなりの問いを立て、自分たちなりの仕方で、自分たちなりの答えにたどり着く」、こうした学びが私たち生徒に学ぶことの楽しさや学ぶことの意義を見出させ、学力向上につながるだけでなく、生涯にわたる立派な探究者へと成長していく糧になるのではないだろうか。

以上のような「学び方の変化」は、すでに全国のいたるところで取り組まれている。150 年間、あまり大きく変わってこなかった学校制度が皮肉にもコロナの流行をきっかけに、今まさに大きく変わろうとしている。

学生はこれからの市民社会の担い手、つくり手だと言われている。そうであるならば、自分たちのコミュニティは自分たちでつくるという経験は必要不可欠になる。私たち学生が何かを一方的に与えられる受け身の存在としてではなく、未来の市民社会の一員として、今まさに学校づくりに関わっていくことが求められているように思えてならない。

【参考文献】

「学校って何だろう　教育の社会学入門」　刈谷剛彦　著

「タブレット端末を授業に活かす」　NHK for School　実例 62

文部科学省

「新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業に伴い学校に登校できない児童生徒の学習指導について」

「新型コロナウイルス感染症対策のための学校の臨時休業に関連した公立学校における学習指導などの取組状況について」

香川県

「公立学校のオンライン授業について」

リセマム

https://resemom.jp/article/2020/05/07/56131.html

高校生 1,600 人に聞きました！　～休校となって気づいたことや考えたこと～

https://www.stepnet.co.jp/stepblog/?p=5783

奨 励 賞

コロナの影響による教育格差

香川県立観音寺第一高等学校１年　池上　結

1．はじめに

現在，世界中を脅かす新型コロナウイルス。日本国内でも，1 日の感染者数は日を増すごとに増加傾向にある。そんな中，春からのコロナの流行によって，世界と比べた日本のデジタル化の遅れが目立つようになった。これは，社会人の在宅ワークだけでなく，私たち学生の教育面にも大きく影響している。私は，なぜ日本は他国に比べてデジタル化に遅れをとっているのか知りたいと思い，解決できれば，もしこれから先もコロナと共に暮らすことになったとしても，今の状況を好転できるのではないかと考えた。この学校臨時休業期間は私にとってこれからの日本の教育制度を自分なりに見直し，改善点を発見できる期間になった。

2．臨時休業による国内の教育格差

臨時休業中に，国内の学生の教育格差はどんどん広がっていった。日本財団（東京）が新型コロナウイルス感染拡大による休校長期化の影響について，全国の 17～19 歳の男女千人に意識調査を実施したところ，58.6%が「教育格差を感じた」と回答した。

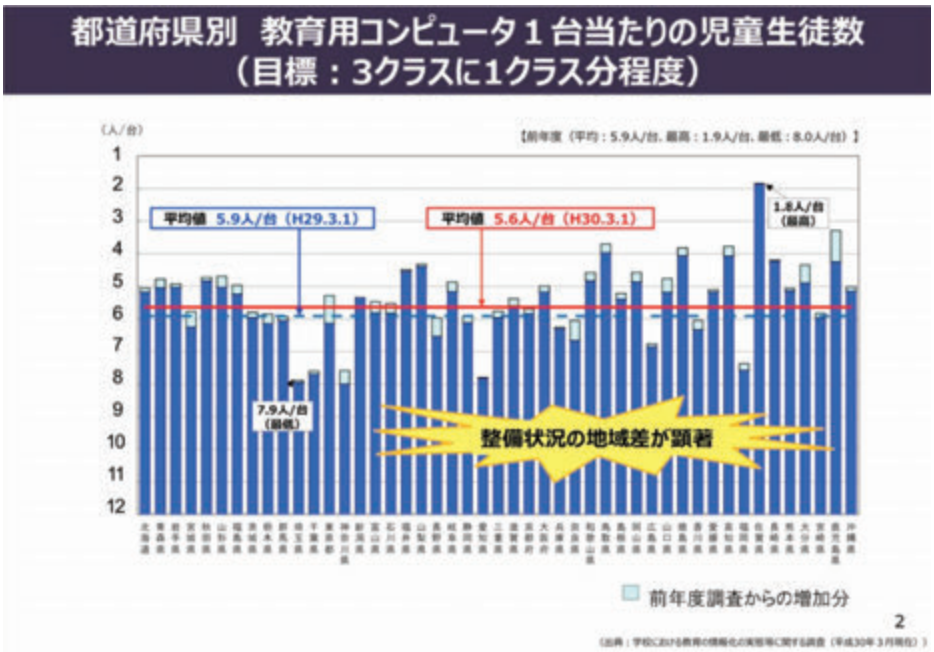
国内でなぜ，教育格差が広がってしまったのか，理由は以下の２つが考えられる。

（１）教育現場での ICT（情報通信技術）の整備の遅れがある。

（２）授業再開日が各都道府県で異なる。

（１）について

資料１



資料１のグラフからも読み取れるように，日本は先進国ではあるが，日本国内でも各都道府県で差があるのがわかる。

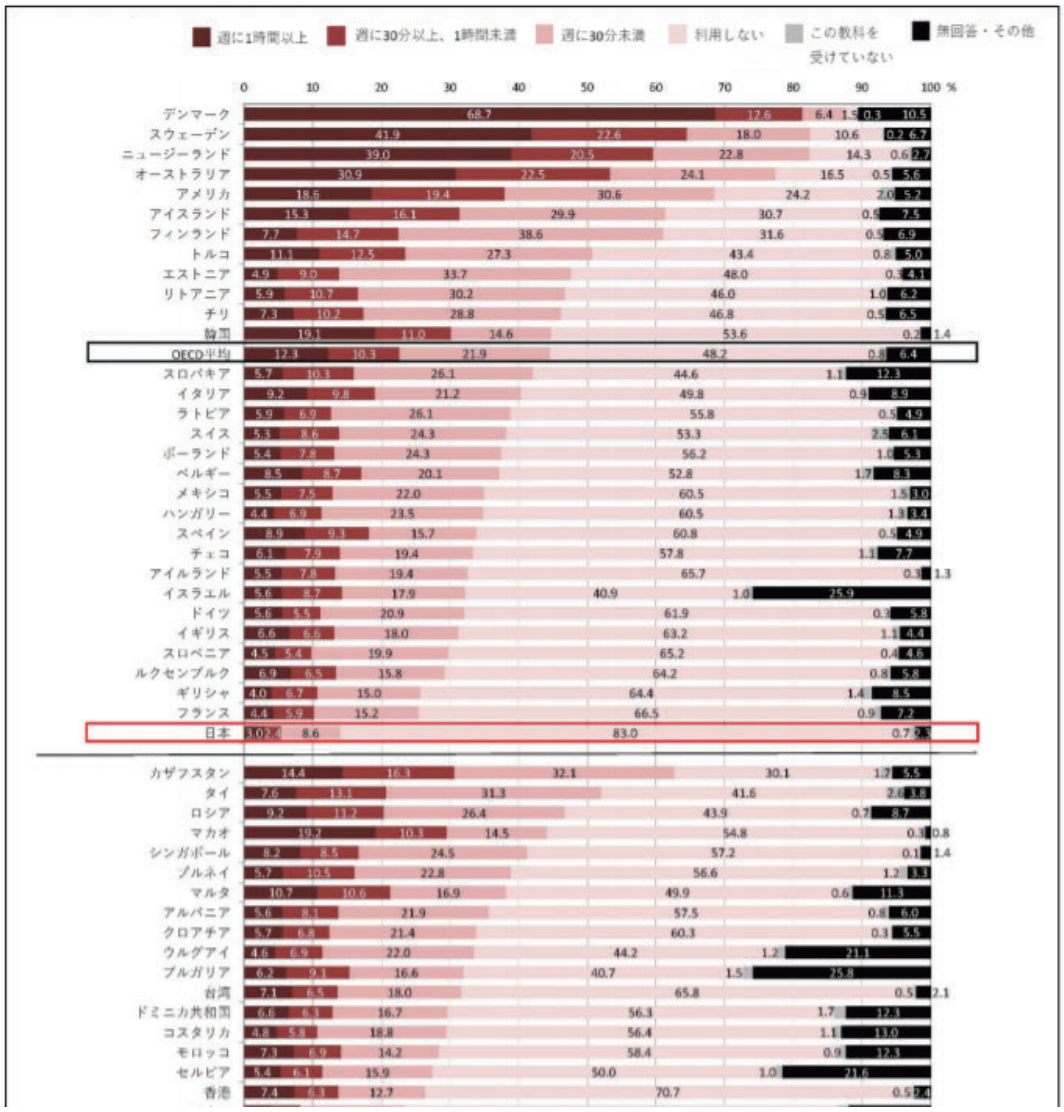
文部科学省「学校の ICT 環境整備の現状」によると，教育のための ICT 環境は，2018 年 3 月 1 日時点でコンピュータ 1 台につき 5.6 人で使用している状況だ。

また，ICT 化が進んでいると言われる，北欧のデンマークの ICT 環境は，2011 年の調査段階では一台につき 2.1 人～2.9 人で使用している状況となっている。

2018 年時点で日本の ICT 環境は 5.6 人／台であるのに対し，デンマークは 2011 年時点ですでに 1 台あたりの使用人数が日本の半分以下となっており，ICT 教育が進んでいるといえる。

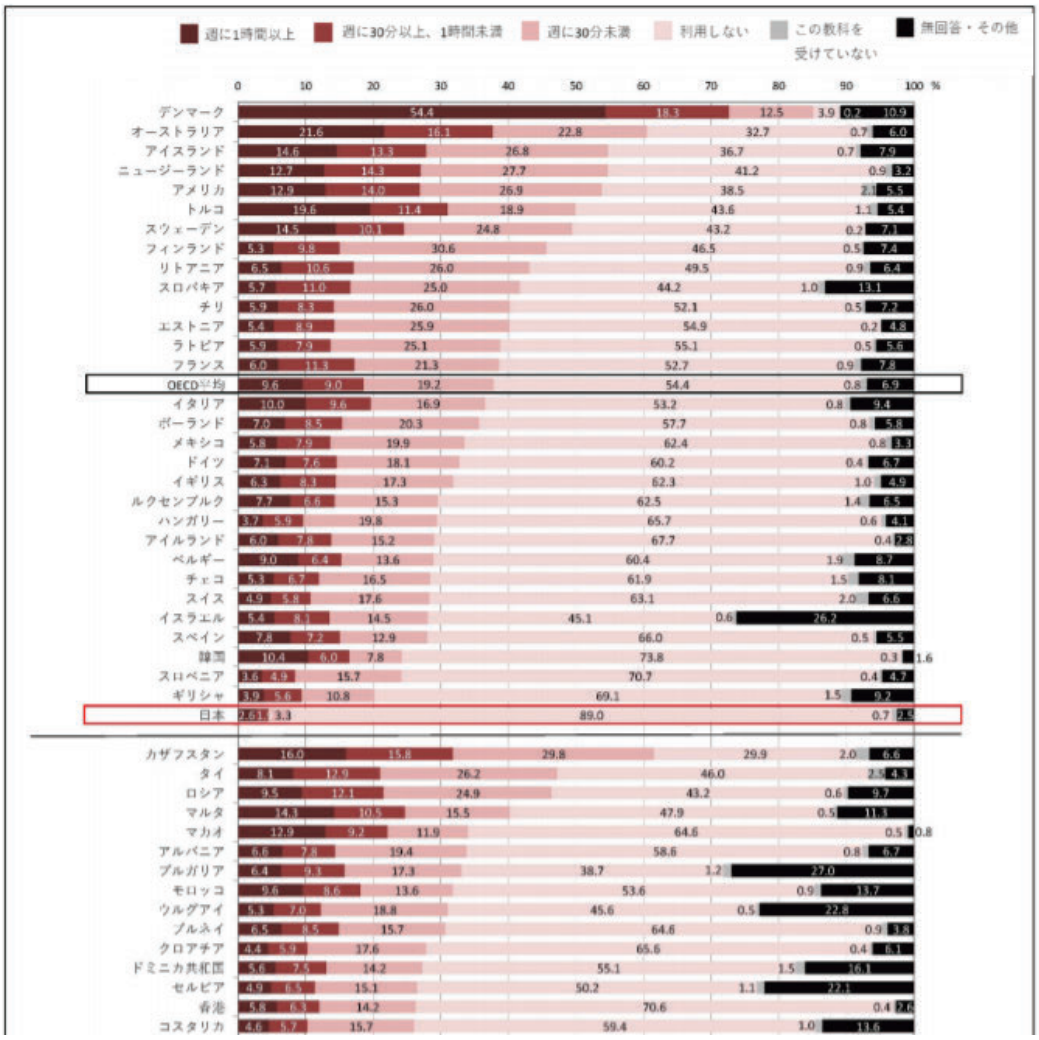
資料２　　**問 8　普段の 1 週間のうち、教室の授業でデジタル機器をどのくらい利用しますか。**

図 5　(1) 国語の授業



資料３　　問８　普段の１週間のうち、教室の授業でデジタル機器をどのくらい利用しますか。

図６　(2) 数学の授業



引用：PISA2018（OECD による学習到達度調査）～2018 年調査補足資料～

資料２と３より，学校の授業（国語，数学）での ICT の使用状況は OECD（経済協力開発機構。国際経済全般について協議することを目的とした国際機関）の加盟国の中でも，日本はやはり他国に劣っている。

では，なぜ日本は ICT 環境が他国に遅れをとっているのだろうか。私の考えた理由は以下の３つである。

①インターネットに対してのネガティブな考え

②予算が足りない

③学校で使うとしても，授業に集中できなくなることが懸念される

①について

現代社会の問題の１つに，インターネット上での誹謗中傷がある。これにより，中には自らの命を絶ってしまう方もいる。そういった，SNS を中心とした問題について，ニュースや記事で取り上げられているのを見て，自分の子供には同じ目にあってほしくないと考える親も多い。

しかし，この問題については，学校で，SNS を利用する上で今よりももっと理解しなくてはならないこと，そして正しい ICT 機器の使い方や，メディアやたくさんの情報を前にして自分でどの情報が正しいのか,間違っている内容ではないのかを見極められるように,教員と生徒，そして親も一緒に理解を深めることで解決につながると思う。

②について

私は,国の予算や各都道府県の予算を使い,一人一人に ICT 機器（例：タブレット,PC ）を配布することで，コロナの流行で問題となった教育格差もオンラインで授業や講座を受けられるようになるので，格差が広がることを止められるのではないかと考えた。

しかし，一人一人に配布する予算はない。よって，この問題の解決は難しい。

③について

デジタル機器と聞くと，どうしてもゲームや遊びに使ってしまうのではないかと考えてしまう。SNS に熱中しすぎてなかなかスマホから離れられなくなっている学生が増加しているのも事実である。

そんな，勉強に悪影響を及ぼすに違いないと思われているデジタル機器だが，うまく活用することが出来ればとても便利なのである。最近では年齢によっては，親が時間やアクセスできるサイトを制御し，子供が依存してしまうのを防ぐことが出来る。また，これは私が高校入試の際に利用していた機能だが,スクリーンタイムというものがある。これは,使用を制限したいアプリを選択し，一日の使用時間の上限や時間帯を指定し，その機能を実施する曜日を選択することで，スマホやタブレットの使い過ぎを防ぐ。私も，SNS を毎日チェックすることが習慣になっていたが,入試前にこの機能を使うことで,一日 4 時間,休日は 10 時間近く SNS を見てしまっていたのが,一日 20 分に激減したのだ。この方法は,我慢することがとても大切なため，すべての人が私と同じように激減する根拠はない。しかし，この機能を使ってスマホとの向き合い方を改めて理解することで，使い過ぎ問題の改善は可能だと考える。

（２）について

コロナの影響による臨時休業で約二か月の間学校に登校できず，学校ごとに授業進度に差が出てしまった。また，コロナの感染者数が各地で異なるため，各都道府県で再開日に

も差が出てしまった。これにより，教育格差が急激に進んでしまった。そして，授業日数の不足を補うために夏休みが例年より短縮された。

しかし，夏休みを短縮したとしても例年より授業進度は後れを取っており，高校入試では出題の範囲を少し狭くすることも決まった。

各地で，これほど教育格差が広がっているのに，今年度中に格差は縮まるのだろうか。

ここで，日本がこのコロナの機会をうまく利用し，アメリカや中国のように，9 月入学にすることも一つの案だった。しかし，結局この案は，採用されなかった。

私は，海外に住んでいた経験もあったため，9 月入学には賛成だった。だから，なぜ 9 月入学が反対され採用されなかったのか気になった。

9 月入学のメリットとデメリットとは

〇メリット

・第二波が来ても学習の遅れやばらつきを取り戻しやすい

→新学期を 2021 年 9 月始まりにすることで，時間的余裕が生まれる。これにより，来年の 8 月までの学習計画に立て直しが可能。

・学校行事の実施が可能

→学生の楽しみである,運動会や遠足,修学旅行がなくなるのはとても残念なことである。学生にとっての思い出作りやコミュニケーションの場となる行事が実施可能になる。

・受験期の問題解消

→毎年，受験の時期になるとインフルエンザの流行や大雪による交通障害が発生する。これらが，受験シーズンが春から夏にかけて実施されるようになれば解消できる。

・留学しやすくなる

→海外の学校では 9 月入学が主流なため，多くの国々と時期的な問題を抱えることなく留学が可能になる。

〇デメリット

・幼稚園や企業との問題

→ 9 月入学にすると，幼稚園から進学してくる子供たちに半年間のブランク，新卒で入社する人達には 8 月に卒業して入社する 4 月までのブランクができてしまう。

・年間スケジュールの大幅調整

→入学・卒業の時期の変更により，入試の時期など年間スケジュールの大幅調整をしなくてはならない。

・待機児童の増加
→新入生を 9 月入学にするにあたって，4 月から 9 月までの 5 か月間，幼稚園や保育園に在籍させるため，待機児童が増加する。

メリットとデメリットを見てみると，9 月入学にするには話し合うことが重要な内容が多く，実施するには多くの時間と労力が必要なことが分かった。コロナで教育面だけでなく感染防止対策や国民の生活を保護するために日々会議を重ねる政府には 9 月入学を進める余裕は無かったのかもしれない。

3. まとめ

これらのことから，臨時休業中に私が出した結論としては，教育格差をなくすための対策として一番なのは 9 月入学だと考えた。改善点や調整が必要な内容はたくさんあるが，メリットも多く，コロナが終息したとしても日本にとって有意義な政策だと思う。実施するのは難しく大変なことだが，それが可能になれば，教育格差の広がりも止めることが出来ると思う。9 月入学を実施しないと決めた，国の判断が正しかったのかは，このコロナウイルスが流行している間は分からない。だが，この判断が少しでも私たち学生に意義あるものになっていてほしい。

♦参考文献

・日本財団「『18 歳意識調査』第 26 回学校教育と 9 月入学」
・学校の ICT 環境整備について：文部科学省
・教育分野における先進的な ICT 利活用方策に関する調査
・PISA2018　OECD による学習到達度調査～2018 年調査補足資料～

これからの地域医療を考える

香川県立観音寺第一高等学校１年　豊浦愛理

１.はじめに

日本の高齢化率は 2018 年に 28.1%となり、令和元年度高齢化白書によると令和 47 年には約 2.6 人に 1 人が 65 歳以上、約 3.9 人に 1 人が 75 歳以上となると推計されている。なかでも香川県は全国平均を上回る速さで高齢化が進行しており、コロナ禍でも注目された「地域医療」の課題について私が住む三豊圏域を中心に考えてみたい。

東京都は新型コロナウイルス対策のスローガンを『防ごう重症化 守ろう高齢者』と掲げたが、これは高齢化率 31.8%の本県にも適応される方針であると考える。これは本県の「地域医療提供体制を守ろう」と言い換えられる。

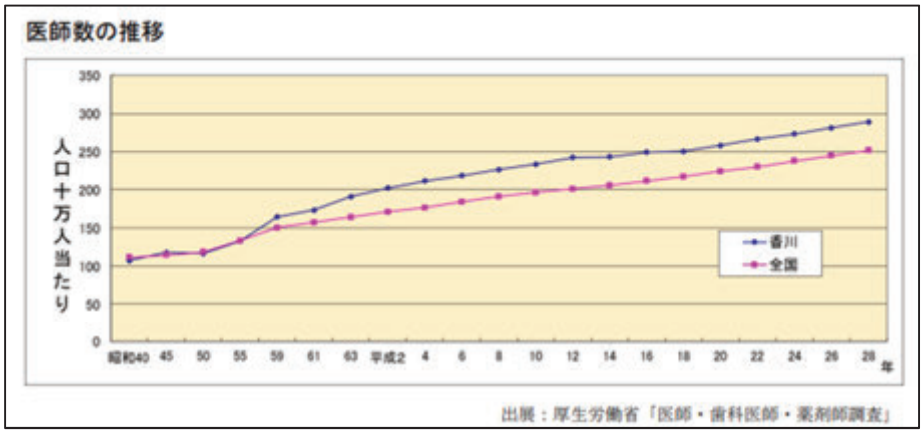
2. 地域医療とは

地域医療とは、病院等の医療機関での治療やケアの枠組みにとらわれず、地域住民が安心して暮らすことができるよう、地域住民の健康を支える医療体制を指す。リハビリテーションや在宅療養のサポート、地域で暮らす高齢者・障がい者の支援等の事業等の活動を医療機関が単独で担うのではなく、地域の行政や住民組織と協力して進めていくことが特徴としてあげられる。

3. 医師不足の現状

地域医療の中で課題となるのは「医師不足」と言われている。高齢化が進む地域では、高齢者が病院にかかることが多く、住居区域外への受診も困難であると考えられるため、医師不足は深刻な問題となることが予想される。加えて新型コロナウイルスの感染拡大により、新型コロナウイルス関連の患者の対応をしつつ、通常の診療の継続も求められ、医師をはじめとする医療従事者の負担が大きな問題となった。

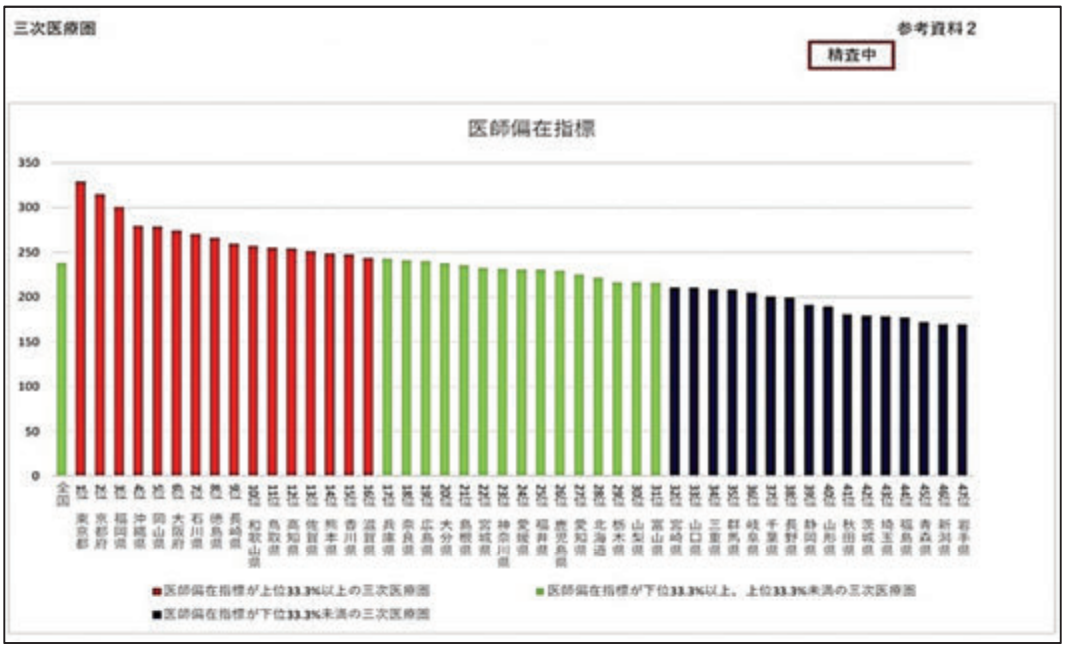
▼図１【医師数の推移】



医師数の推移のグラフからわかるように年々医師数は増加している。その中でなおかつ医師不足が改善されない原因の

ひとつとして「医師の偏在」があげられる。下図は医師偏在指標を示したものである。

▼図 2【医師偏在指標】



医師偏在指標とは①医療ニーズ及び将来の人口・人口構成の変化、②患者の流出入、③へき地等の地理的条件、④医師の性別・年齢分布、⑤医師偏在の単位（区域、診療料、入院、外来）を「偏在にかかわる 5 要素」として、これらを考慮して策定されたものである。1 位の東京都と 47 位の岩手県ではおよそ 2 倍もの差があることがわかる。香川県は上位 3 分の 1 のグループに属しており、医師多数県に位置づけられる。ところが、同じ県内でも、三豊圏域は医師偏在指標が 163.5 と全国平均を下回っており医師不足区域と言え、県庁所在地のあるような比較的人口が密集している都市は医師が足りているが、郊外や島しょ部に行くほど、医師の数が減っているという医師の偏在がみられ、地域格差が深刻化していることがわかる。

▼表 1【医師従事者数】

医師従事者数

医　療　圏	従事者数	医師偏在指標	区　　分	人口 10 万人当たり【参考】
香川県（全体）	2,683	251.9	医師多数県	276.0
小豆保健医療圏	45	113.3	医師少数区域	158.2
東部保健医療圏	1,669	288.0	医師多数区域	313.9
（うち大川圏域）	(123)	(117.0)	(－)	(153.5)
西部保健医療圏	969	207.4	医師多数区域	235.1
（うち三豊圏域）	(252)	(163.5)	(－)	(203.6)
【参考】全　国	304,759	239.8	－	240.1

出展：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」（平成 28 年）
厚生労働省「医師偏在指標(※)」（令和元年）

(※) 大川圏域と三豊圏域の医師偏在指標については、厚生労働省から提供された基礎データを基に、県が算出した数値。

また、表 2 より、三豊圏域では救急科医師数が 0.0 など、診療科の偏在もみられる。

▼表 2【主な診療科の医師従事者数】

主な診療科の医師従事者数（人口 10 万人当たり）

医　療　圏	内科（※1）	外科（※2）	小児科	整形外科	産婦人科（※3）	救急科
香川県（全体）	98.6	27.0	15.9	23.3	10.2	2.1
小豆保健医療圏	73.8	14.1	10.5	10.5	3.5	0.0
東部保健医療圏	108.3	31.6	16.0	25.2	12.2	2.4
（うち大川圏域）	69.9	10.0	7.5	17.5	5.0	0.0
西部保健医療圏	87.6	21.8	16.3	21.6	8.0	1.7
（うち三豊圏域）	80.8	20.2	9.7	21.8	7.3	0.0
【参考】全　国	89.6	22.1	13.3	16.8	10.4	2.6

出展：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」（平成 28 年）

※1　内科は、内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科（胃腸内科）、腎臓内科、神経内科、糖尿病内科（代謝内科）、血液内科、感染症内科、アレルギー科、リウマチ科、心療内科を合わせた医師数

※2　外科は、外科、呼吸器外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科（胃腸外科）、肛門外科、心臓血管外科、小児外科を合わせた医師数

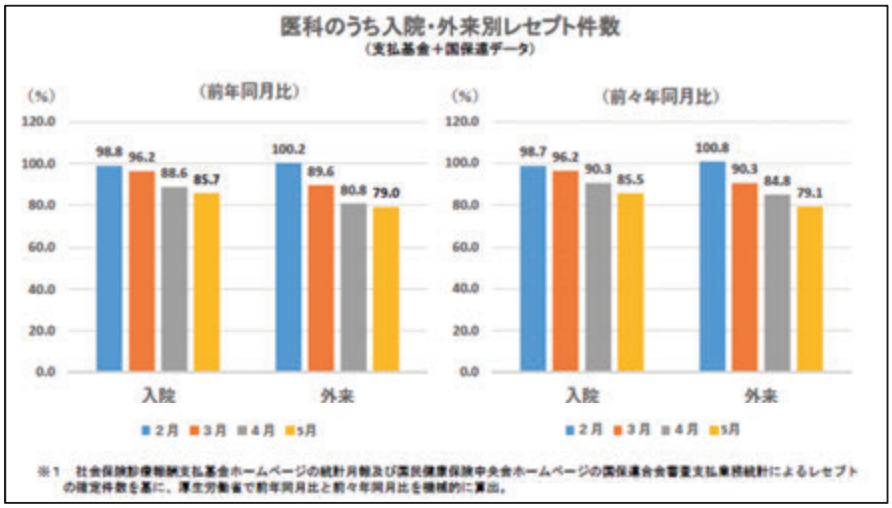
※3　産婦人科は、産婦人科、産科、婦人科を合わせた医師数

4. 医師不足解消に向けて

本県の医師不足の現状を踏まえて、香川県医師確保計画では①医学部進学者、医学生、初期臨床研修医、専攻医、臨床医等のキャリアステージに対応した体系的な対策や、②医療従事者の勤務環境の改善支援等の対策が取られており、大いに期待したい。本県の医療に従事しようとする若者を確保するためには、魅力ある勤務環境が求められる。

が、ここでは、新型コロナウイルスにまつわる社会状況の変化を踏まえて別の提言を試みたい。

新型コロナウイルス感染を恐れて軽症者が受診を控える状況が続いている。入院・外来共に前年及び前々年に比べて患者数の減少がみられ、特に外来患者の減少幅が大きい。受診控えは、病院の経営状況に影響を及ぼしたり、持病の悪化等につながったりしたケースもある。



▲図 3【医科のうち入院・外来別レセプト件数】

その問題を解決する一つとして「オンラインによる遠隔診断」の普及を提言したい。

オンライン診療は病院へ足を運ぶ必要がないので、他の患者と接触・二次感染の心配がない。だからこそ、新型コロナウイルスの感染が拡大している現在が今後に向けて整備していく必要性を感じた。また、オンライン診療は、車を運転できない方や１人で外出が難しい方が、在宅で診療を受けることができるので、高齢化が進み、かつ、公共交通機関が十分整備されていない過疎地域こそ利用を推進すべきと考える。が、たくさんの課題もある。オンライン診療には、インターネット環境や通信機器をうまく操作する技術が必要になってくる。

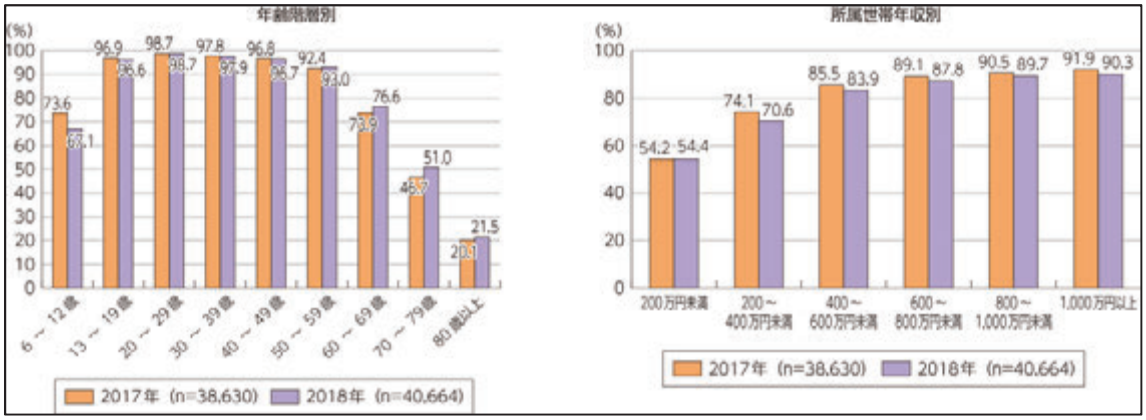
▼表３【インターネット利用者の割合】

都道府県（n）		インターネット利用者の割合				
		総数	パソコン	携帯電話（PHSを含む）	スマートフォン	タブレット型端末
北海道	(703)	76.1	41.2	8.0	54.4	17.2
青森県	(938)	70.9	39.8	6.6	52.3	14.7
岩手県	(1,026)	69.4	37.5	8.1	49.4	15.2
宮城県	(940)	77.4	42.8	9.3	56.0	17.8
秋田県	(892)	67.1	38.6	7.3	46.9	17.2
山形県	(1,106)	71.7	37.6	5.8	49.0	13.6
福島県	(771)	72.3	40.2	8.7	50.7	15.0
茨城県	(834)	78.0	40.3	6.7	59.7	15.5
栃木県	(916)	78.6	48.0	7.7	58.7	22.4
群馬県	(1,021)	78.0	42.3	7.8	56.9	17.5
埼玉県	(906)	85.7	52.7	7.1	67.2	22.7
千葉県	(779)	79.9	50.4	8.9	60.8	19.8
東京都	(777)	88.4	60.9	11.7	68.6	28.9
神奈川県	(799)	84.5	57.4	11.4	65.1	23.4
新潟県	(1,083)	71.3	41.5	6.5	50.1	16.7
富山県	(1,273)	74.1	43.8	8.1	51.5	16.2
石川県	(1,061)	78.2	46.0	6.6	55.8	20.2
福井県	(933)	73.5	39.8	7.1	51.9	17.3
山梨県	(1,025)	75.8	44.4	7.8	56.7	15.8
長野県	(927)	73.4	47.1	8.9	52.1	15.7
岐阜県	(920)	74.9	41.8	6.6	55.1	17.6
静岡県	(1,068)	78.1	46.2	8.6	54.3	18.9
愛知県	(853)	82.5	52.8	5.8	64.4	20.2
三重県	(773)	77.0	44.8	6.8	54.6	19.5

都道府県（n）		インターネット利用者の割合				
		総数	パソコン	携帯電話（PHSを含む）	スマートフォン	タブレット型端末
滋賀県	(917)	83.8	51.4	8.1	60.8	20.7
京都府	(925)	80.1	48.0	6.9	60.7	23.2
大阪府	(760)	84.7	50.0	12.0	62.0	20.8
兵庫県	(755)	81.7	52.4	7.9	63.2	21.4
奈良県	(937)	83.0	50.0	7.4	62.5	20.1
和歌山県	(825)	74.3	40.9	7.6	52.9	19.8
鳥取県	(866)	70.4	38.6	8.1	46.1	14.6
島根県	(915)	73.4	44.3	9.9	49.6	17.9
岡山県	(822)	74.9	40.4	9.9	54.9	20.4
広島県	(774)	80.2	48.0	10.0	57.1	20.7
山口県	(837)	73.3	42.1	8.8	51.8	17.5
徳島県	(747)	74.3	39.7	6.9	52.3	18.8
香川県	(839)	73.4	45.4	8.6	52.7	18.8
愛媛県	(774)	73.9	43.1	8.4	54.1	17.6
高知県	(709)	68.8	35.5	8.5	49.1	14.7
福岡県	(768)	77.8	42.4	9.5	56.8	22.8
佐賀県	(866)	74.4	40.4	8.6	53.0	17.9
長崎県	(771)	74.5	41.3	7.9	54.5	18.7
熊本県	(825)	72.9	39.2	7.6	55.5	22.9
大分県	(790)	73.0	39.2	10.6	49.3	17.8
宮崎県	(778)	68.1	37.3	6.3	50.9	19.3
鹿児島県	(607)	70.7	30.7	5.7	52.6	18.1
沖縄県	(533)	74.9	33.8	7.1	55.4	18.4
全体	(40,664)	79.8	48.2	8.8	59.5	20.8

香川県のインターネット利用率は 73.4％と全国平均 79.8％をやや下回る値であるが、多くの県民がインターネットを利用している。

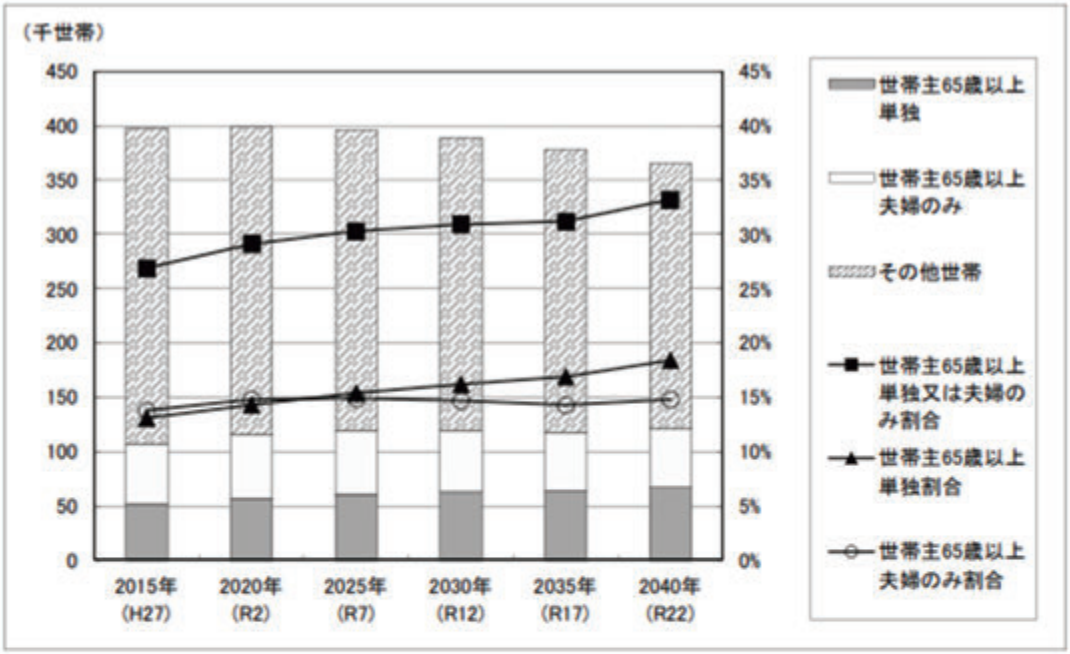
▼図４【属性別インターネット利用率】



しかし、階層別インターネット利用率をみると、70 歳以上の年齢では利用率が格段に低くなっている。つまり、三豊圏域の高齢者が積極的にオンライン医療を利用する可能性は

低いと考えられる。加えて、世帯主が 65 歳以上の単独または夫婦のみ世帯は年々増加すると考えられ、県内全世帯の約 3 割を占めるようになると、その世帯のインターネット環境整備や利用率は他の世帯に比べると低くなると予想される。しかし、それらの世帯こそ病院を利用する割合の高い世帯と言える。

▼図 5【高齢者のいる世帯の状況】



（単位：千世帯）

香川県	2015年 (H27)	2020年 (R2)	2025年 (R7)	2030年 (R12)	2035年 (R17)	2040年 (R22)
世帯主が65歳以上の単独世帯 ①	52	57	61	63	64	67
世帯主が65歳以上の単独世帯の割合	13.1%	14.3%	15.4%	16.2%	16.9%	18.4%
世帯主が65歳以上の夫婦のみ世帯 ②	55	59	59	57	54	54
世帯主が65歳以上の夫婦のみ世帯の割合	13.8%	14.8%	14.9%	14.7%	14.3%	14.8%
世帯主が65歳以上の単独又は夫婦のみ世帯 ①+②	107	116	120	120	118	121
世帯主が65歳以上の単独又は夫婦のみ世帯の割合	26.9%	29.1%	30.3%	30.8%	31.2%	33.2%
その他世帯 ③	291	283	276	269	260	244
合計 ①+②+③	398	399	396	389	378	365

【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）2019 年推計」

高齢者世帯のオンライン診療普及のためには、各自治体が①情報通信機器の整備の補助をする、②シニア向け ICT 教室を開催する等の対策を必要とする。

5. おわりに

この地域の医師不足という課題に対して自分なりの対策を考えてみた。都会の方が最新の設備も整っており非常に医療活動がしやすい状況にあるので、都会に医師が増えるのも納得ができる。しかし、都会では治せる病気が地方では治せないと医療格差はあってはな

らない。だからこそ今少しずつ普及しつつあるオンライン診療を有効に活用し、専門医の早期診断を受けることができるなど非常に良い対策であると考える。だが、このオンライン診療を普及するには前述のようにハード面、ソフト面の設備が必要となってくる。シニア向けの ICT 教室には小・中・高校生を講師に開催してはどうかと提案したい。学生にとって学んだことを他者に分かるように説明することは学びの深化につながる。これから増加する高齢者単身または夫婦のみ世帯の方にとっては、世代を超えた交流の時間を持つことができる。

よくあるお笑いネタで「病院の待合室で常連のお年寄りたちがおしゃべり。『あれ、今日は〇〇さん来てないね』、『ほんとだ、どっか具合が悪いのかな』」。私も風邪等で近所の病院に行った時には、このお笑いネタのように、多くの高齢の患者で待合室がいっぱいになっていたが、今年の 9 月初めに母が近くのクリニックを受診したところ、患者数の少なさに驚いたそうだ。軽症患者が受診を控えられるという事は、以前の通院は大いに社交を目的とした社会的通院の面があったと考えられる。医師体験に参加した際、「ただ患者さんの病気を治すことだけが医師の役目ではなく、心のケアをすることも大事な役目だ」と教えてくださった。だからこそ、患者と実際に会って診療をすること自体が本当の意味での治療である。しかし、今回のようにそれがかなわない場合に、せめて画面を通して話ができるオンライン診療に一翼を担ってもらうのも一つの手段であると考える。

■参考文献

- 香川県医師確保計画（令和 2 年 3 月）
  https://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/web/upfiles/wfn4nw200228115843_f06.pdf
- 新型コロナウイルス感染症への対応とその影響等を踏まえた診療報酬上の取扱いについて
  https://www.mhlw.go.jp/content/12404000/000660347.pdf
- 香川県の高齢者を取り巻く現状等
  https://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/web/upfiles/wp0qxv200703111939_f04.pdf
- 総務省令和元年度版情報通信白書

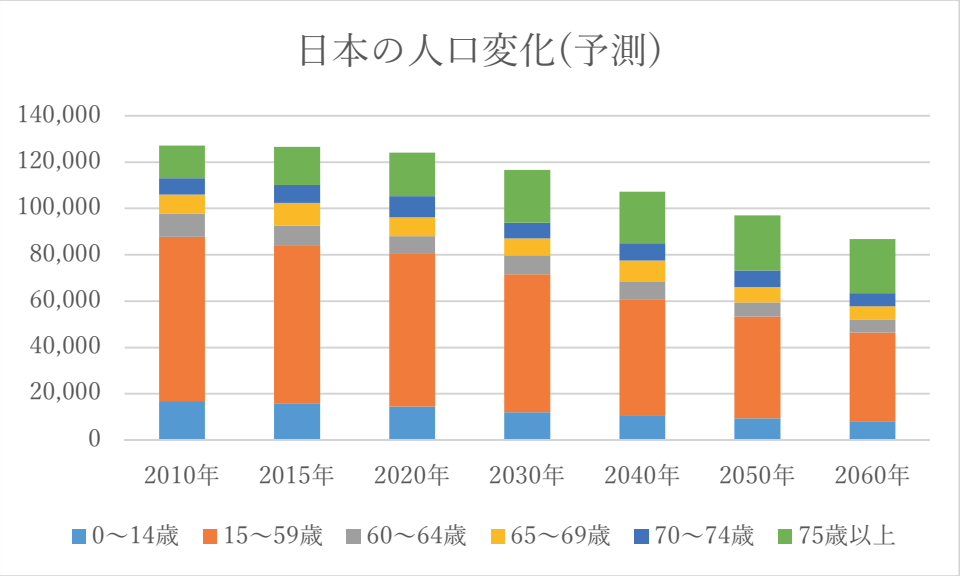
未来の地域社会と私達

香川県立観音寺第一高等学校１年　若宮　連

1　はじめに

新型コロナウイルス感染症の流行によって、地域の行事は多くが中止や開催規模の縮小を余儀なくされている。それによって地域コミュニティは縮小し、感染が収まったところでそれが元に戻るのかは未知数である。また、少子高齢化により、地域の行事、文化を担ってきた若い人とノウハウのあるお年寄りのどちらも少なくなりつつある。そんな中、私は、この決して良いとは言えない状況下の中、将来の地域行政はどうなるのか、そしてどうしたら現状を変えられるかについて、考えていきたい。

2　将来の地域行政



上のグラフから分かる通り、今後も生産年齢人口は減少し、高齢者人口の割合は増加すると予測されている。そうなると、市役所等での事務作業に割ける人員も必然的に減ることとなるだろう。その時どうするか。案としては二つあると思う。さらに自治体を統合するか、IT 化の推進と AI を導入するか、のどちらかである。

個人的には、後者を推したい。前者は言うなれば対症療法であり、根本的な解決にはならない。「人手が足りない」と言う問題はなくならないのだ。

それに対し、IT 化、AI の使用はそもそも事務に割く人員を減らせる上、クラウド上でデータを管理するので、いざという時、データそのものはきちんと残る。ハッキング、データ流出の問題はあるが、それは今も同じなので、今のこの状況からすればよいことずくめと言って差し支えないだろう。

しかし、こういった大がかりなことは一朝一夕にはできない。国が IT 化を推進するの

はもちろん、自治体としても独自でそれを進めるべきではないだろうか。

そして IT 化と同じく、将来の地域行政を考える上で重要なのが高齢者人口への政策である。私は、高齢者の健康を保つことが非常に大切だと思う。健康である人が多ければ医療費の増大を抑えることができる上、地域の文化、行事を守っていく上でそれについてノウハウを持っているので、大きな助けとなるだろう。また、介護のための人員も少なく出来る。

では、どうすれば高齢者の健康を保てるか。私は子供との関わりを今よりももっと持たせれば、その一助になると思う。子供とふれあうと、元気をもらえる上、文化祭のような子供に関わる行事に興味を持ってくれるだろう。そこから更にお祭りなどに参加してくれるようになると、本人は気力がどんどん湧いてくるだろうし、地域の人もその人を気遣い、孤独死も免れることになるのではないだろうか。

高齢者を老人ホームに閉じ込めるのではなく、地域との関わりを持たせる。これは決して新しいことではない。むしろ戦前等に見られた狭いコミュニティへの回帰に近い。インターネットの普及などにより、前近代的な狭いコミュニティはなくなりつつある。だからこそ、古いものの良さを現代にも反映させ、新しいものの良いところも合わせた将来にも対応できるコミュニティを目指して住民、行政共に力を合わせて頑張らなければいけない。

3　将来の地域医療

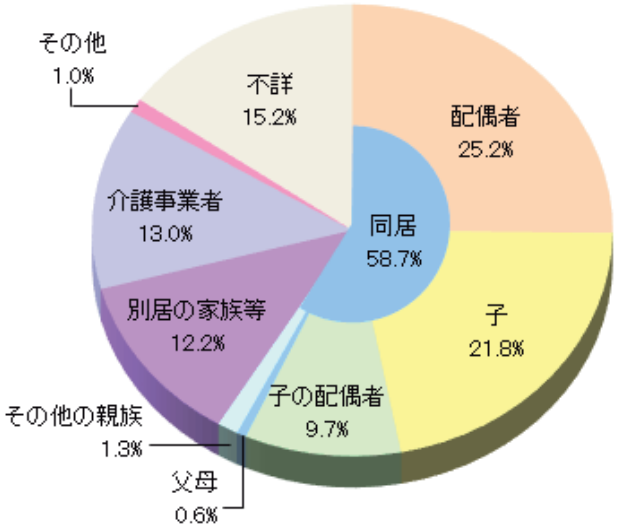
地域医療とは、病院で治療するだけではなく、高齢者や障がい者への支援、病気の予防なども含む幅広い医療活動である。今回のコロナウイルス感染症などについて言うと、感染者の隔離だけでなく非感染者に予防対策を教えることも仕事の一つだろう。前述の強いつながりがあるコミュニティにも関わってくる話である。

ところで、これからは AI が医療現場でどんどん使用されることとなるだろう。これまでの診療データを取り入れてプロフェッショナルである人間の医師よりも間違いのない、正確な判断を下せるようになる日もそう遠くないのかもしれない。

では、診察をする必要がなくなった医師はどうなるのか。私は、インターネットを通じて、病気の人に AI の判断に基づいた提案や助言をしたり、家庭に何か問題を抱えた人がいたらそれについてアドバイスをしたりするようになるのではないかと思う。AI は確かに優秀ではあるが、人とは根本的に相容れない存在である。AI が出した結論が人間では到底受け入れがたいものだったと言うことも起こりうるであろうことは容易に想像がつく。そういうとき、専門知識を持っている医師がその結論を言い換え、わかりやすく受け入れられやすいアドバイスに作り替えるということが出来るのではないだろうか。

そして、病院はそういった診療活動と同時に、地域の人達、行政と連携してコミュニティをより強固なものにしていかなければならない。地域医療がより強固なコミュニティを作ることにより、未曾有の大災害にも対応出来るような力となる。

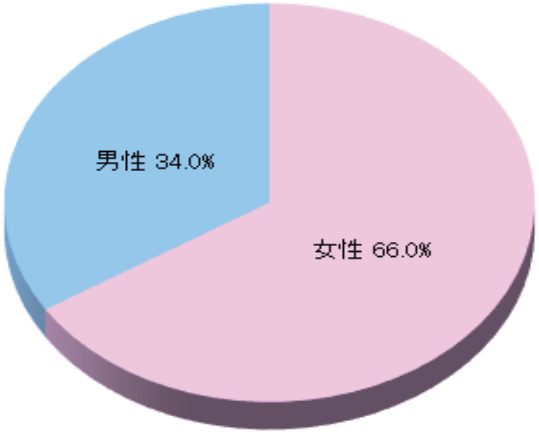
4　現在の介護の状況と課題点



このグラフによると、介護をしているのは半分以上が同居している家族であり、別居の家族も含めると 7 割以上に上る。

それとは反対に、介護事業者を利用しているのは 13%と、家族間と比べての割合がとても低かった。これに関する理由としては、業者を雇うとお金がかかるという点、また家で介護するしかないとき(施設に入れることが出来るほどの金銭的な余裕がないとき)はそもそも業者を雇うという発想がない、といった理由があるのではないかと推測できる。

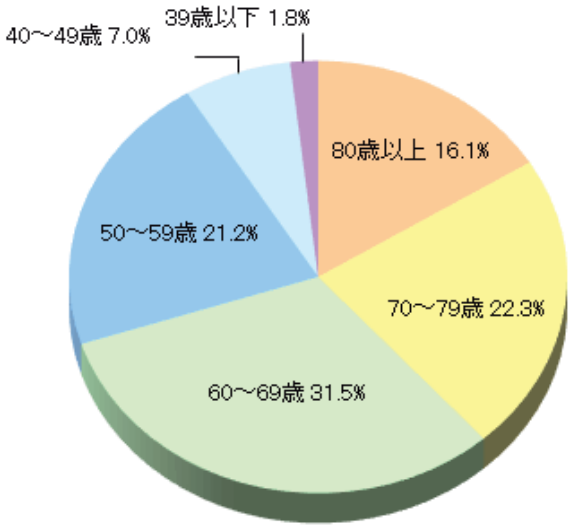
そして、介護している人の性別の内訳はこのようになっている。



このように、女性の割合が男性に比べ、非常に高いことが分かる。

考えられる主な理由としては、女性は基本的に男性よりも長生きという点、そして介護するのは女性という古い考えをもっている人が介護者、被介護者に多くいると考えられる(後述のグラフ等を参考)から、このような内訳になっているのだと推測できる。

また、次のグラフは介護している人の年齢層の内訳である。



このグラフで最も目に付くのは、やはり 60 歳以上の人の割合だろう。60 歳以上の人の割合はほぼ 7 割となっており、よく言われるように「老老介護」になっているのが明確に分かるグラフとなっている。

以上の点からわかる今の介護の問題点は、

・被介護者が出た時、家族間で全ての面倒を見ようとすること

・介護者、被介護者双方に高齢者が多いため、「介護は女性の仕事」という古い考えを持つ人の割合も必然的に多いこと

・高齢者が高齢者を介護するいわゆる「老老介護」になっていることがあげられる。

この問題を解決するためには、地域全体でその人達をカバーすることと、自分たちだけでどうにかしようとせずに、大変な時は素直に助けを求めると言う案がある。

これからは団塊の世代も介護される側に回ってくる時代となる。みんなで一人を支えなければ、このまま生きていくのは厳しくなっていくだろう。

5　最後に

これからの日本の将来は今まで以上に厳しくなるだろうとは思う。国内で着々と進行する少子高齢化、IT 化の波、etc…

だからこそ、私は古いコミュニティの良さを考えた。強い結束があるからこそ、明治以降の日本人は困難を乗り越えられたのだと思う。古いコミュニティの良さと、現代のコミュニティの良さ。その二つを合わせた新しい共同体によって現代の困難も乗り越えることが出来ると私は信じている。

出典：内閣府
　　厚生労働省
　　生命保険文化センター

コロナ禍をどう生きるか～ハンセン病と新型コロナウィルス～

香川県立高松高等学校２年　岡野明莉

1. はじめに

２度目の臨時休校期間にある新聞記事を読んだ。「差別的状況　ハンセン病と重なる」という見出しで、元厚生労働大臣の坂口力さんがインタビューに応じていた。私は、中学生の時からハンセン病について調べてきた。この論文では、ハンセン病と新型コロナウィルスを比較したり、ハンセン病の歴史を調査したりすることで、私たち高校生が“with コロナ”の時代をどう生きていくべきかを考えていきたい。

2. ハンセン病と差別

〈ハンセン病とは〉

① 感染力が弱く、うつりにくい。

② 早期発見、適切な治療により治る。

体の一部の変形などの外見の特徴から、偏見、差別の対象にされることがあり、行政主導の「癩予防法（らい予防法）」に基づく強制隔離政策により、さらに偏見、差別が助長された。「らい予防法」が廃止されたのは、1996 年、今から約 25 年前のことだ。法律が廃止されても偏見、差別は残っている。

〈ハンセン病に関する差別の特徴〉

① ハンセン病回復者だけでなく、家族にも及ぶ差別

・学業、就職、結婚など、様々な場面で差別を受けた。

・差別を恐れ、回復者の家族であることを隠し続ける厳しさがあった。

例）1954 年「黒髪校事件」

菊池恵楓園の入所者の子どもたちが暮らす寮の 1 年生を近くの黒髪小学校へ通わせようとすると、保護者が猛反発し、1 年余の激しい対立の末、寮は閉鎖に追い込まれた。

② らい予防法廃止後も続く差別

例）2003 年「黒川温泉宿泊拒否事件」

熊本県内の温泉ホテルが、恵楓園の入所者の宿泊を拒否した。恵楓園の入所者自治会がホテル側の謝罪文の受取りを拒否すると、被害者の自治会に抗議や中傷が殺到した。中傷の手紙の一部を読んだが、私が読んでも心が苦しくなった。

全国 14 カ所の療養所では今も 1,000 人ほどの回復者が暮らしている。私は、大

島青松園を訪れたことがある。特に印象に残っているのは「風の舞」というモニュメントだ。「せめて死後の魂は風に乗って島を離れ、自由に解き放たれますように」という願いをこめて作られたものだ。青松園で生涯を終え、亡くなっても故郷の墓に入れない入所者の方を想って作られた。差別の現状の厳しさを感じると同時に、入所者の方の幸せを願うボランティアの方の心の温かさを感じた。

（資料①）風の舞

3. 新型コロナウィルスと差別

〈新型コロナウィルス感染症とは〉

① 発熱、せきなどの呼吸器症状がでる。

② 飛沫感染、接触感染で感染する。

③ 抗ウイルス薬等の特異的な治療法はなく、対処療法を行う。

④ 咳エチケットや手洗い、三密（密閉・密集・密接）を避けることで予防する。

〈コロナウィルスに関する差別の現状〉

① 感染者・濃厚接触者に対する差別

・感染者発生の報道から、インターネット上で感染者や家族、勤務先が特定され、嫌がらせを受ける。

・回復者や濃厚接触者に周囲が理解を示さず、職場や学校に速やかに復帰できない。

② 医療従事者にも及ぶ差別

・保育所が医療従事者の子どもの預かりを拒否し、医療従事者が自宅待機や休職、離職せざるを得ない。

〈新型コロナウィルスに関する差別解消のための取組み〉

新型コロナウィルスに関する差別の解消に向けて、各自治体、市民団体が様々な取組みを行っている。

① 「NO コロナハラスメント」キャンペーン（香川県）

県内の団体や個人と連携して、メッセージ動画の募集・公開や、ロゴマークの管理などを行っている。

（資料②）「NO コロナハラスメント」のロゴマーク

② シトラスリボン活動

シトラス色（柑橘をイメージした色）のリボンで3つの輪を作り、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動である。3つの輪は地域・家庭・職場または学校を表し、差別を恐れることなく安心して検査を受けられるまち、感染が確認された後に的確な対応ができるまちを目指す。

（資料③）シトラスリボン

4. ハンセン病と新型コロナウィルス

ハンセン病と新型コロナウィルスの共通点は「知識より不安や恐怖が先走っている」ことだと思う。ハンセン病では、「無癩県運動」や「らい予防法」により「ハンセン病＝恐ろしい」というイメージが人々の心に植えつけられた。今では、正しい知識を広める、また未来に伝えるためにパンフレットや資料館が作られているが、1 度植えつけられたイメージを取り除くことは非常に難しく、差別は今も続いている。新型コロナウィルスが流行する今、正しい情報と間違った情報が混在しており、人々はウイルスに対する恐怖や不安を抱いている。それが、結果として人に対する差別という形で表れている。

ハンセン病と新型コロナウィルスの相違点のうち、大きなものは感染力と治療法の有無だと思う。ハンセン病は感染力が非常に弱くうつりにくい一方、新型コロナウィルスは飛沫感染、接触感染するので、感染防止策をとる、つまり一定の「区別」をする必要がある。

5. 差別解消に向けて今できること

〈なぜ差別が起きるのか〉

私は、自分の身を守ろうという気持ちのほんの少し先に差別の心はあると思う。どこまでが自己防衛で、どこからが差別なのか、その境界線ははっきりしていない。人によってその境界線が異なる。コロナが怖い、自分はかかりたくないと思い、悪気無く、気づかぬうちに差別をしてしまうこともあるのだと思う。また、“with コロナ”の時代、活動に制限がかかったり、規模が縮小されたり、身体的にも、精神的にも負荷のかかる生活を余儀なくされ、ストレスが溜まっている。それが差別に繋がっているかもしれない。

〈私たち高校生にできること〉

① 自分が差別をしない

・新型コロナウィルスに関する情報を受け取る際は冷静になる。情報により不安を感じ、平常心を失って行動することのないようにする。

・暗い気持ちになったり、ストレスが溜まったりしないように、新型コロナウィルスの話題とは距離をおく時間を作る。

② 周りの差別を許さない

・新型コロナウィルスについて、身近な人と話し合い、偏った考えを持っていないか、明らかな差別を許容していないか確かめる。

6.　おわりに

私は、ハンセン病についてこれまで調べてきていて、何度も差別をしてきた人への怒りがこみ上げてきた。同じ過ちを繰り返しはならない、差別はいけないことだと思ってきた。

でも、私は、大阪に住む兄が帰省してきた時、「近寄らんといて」「うつさんといて」などと言ってしまった。コロナウィルスを恐れて言ってしまった言葉だが、兄を傷つけたかもしれない。差別は決して他人事ではなかった。

臨時休校期間は新型コロナウィルスに関する情報に、自分ひとりで向き合う時間が多かった。情報の取捨選択をしたり、それに関する意見を持ったり、受け身ではなく、主体的に考え、取り組むことができた。また、今回の論文を執筆する中で、単に「記憶を学ぶ」というより、「記憶から学び、考える」ことの大切さを感じた。“with コロナ”の今、自分が差別をしない、周りの差別を許さないためには、周りの人に流されない、でも、周りの人の意見や記憶から学び、自分の考えを見つめ直すこと、つまり、「強くしなやかな芯を持つ」ことが一番大切だと思う。

7.　参考文献

・ハンセン病と差別について

・ハンセン病の向こう側（厚生労働省発行）

・山陽新聞朝刊　2018 年 9 月 3 日 22 ページ

2018 年 10 月 11 日 30 ページ

・大島青松園について

・大島マップ（高松市発行）

・（資料①）風の舞

・せとうち島めぐりホームページ

https://setouchishimameguri.com/oshima

・新型コロナウィルスについて

・東京都感染症情報センターホームページ

http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/2019-ncov/qa/qa1/

・日本経済研究センター　政策ブログ

https://www.jcer.or.jp/blog/babazonoakira20200624.html

・「NO コロナハラスメント」キャンペーンについて

（資料②）「NO コロナハラスメント」のロゴマーク

・香川県ホームページ

https://www.pref.kagawa.lg.jp/content/dir3/dir3_11/dir3_11_1/nocoroharal.shtml

・シトラスリボン活動について

（資料③）シトラスリボン

・シトラスリボンプロジェクトホームページ

https://citrus-ribbon.com/

コロナ禍での自分発見と挑戦する姿勢

高松第一高等学校１年　三﨑もか

１．　はじめに

新型コロナウィルスのため今までの日常はすっかり変わってしまった。高校入学後海外への留学を考えていた私にとっては実現が不可能になってしまった。今後コロナ禍の中でどのようにして社会状況の変化に対応していくか、また自分自身この状況下で何を考え、どう行動していくかについて考えていきたい。

私自身は学校臨時休業期間中に海外に行けなくても今だからこそ、自分が住む香川、四国、日本の良さを再発見し、海外に発信したり、日本人としてのアイデンティを見つめるたりする時間とするべきであると考えた。前向きに取り組む時間へと変え、実際に行動することで実証しようと試みた。

２．　学校臨時休業期間に取り組んだこと

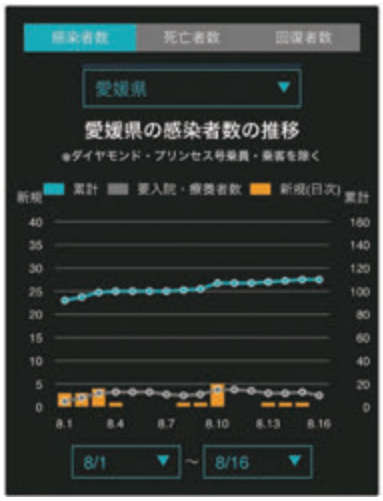
① 英語以外の語学習得。（ドイツ語、中国語）
(理由)国連においても英語以外の第二外国語の習得は必要不可欠。グローバルな時代への対応。

② 香川や四国、特に四国遍路について詳しく調べ、実際に訪れる計画を立てる。
(理由)祖母の勧めと世界遺産登録を目指して活動している真只中であるということ。2020 年は 4 年に一度の逆打ちの年。（祖母の白衣を譲り受ける－繋がり）

３．　四国遍路の方法と新型コロナウィルス対策（行動に移す）

一番重要なのは新型コロナウィルスの感染状況を日々観察し、感染のリスクを避ける綿密な計画。(with コロナ)

夏休みが短縮されわずか 8／9（土）～8／18(火)の 10 日間しかなく、その中で部活動や瀬戸内サマープログラムへの参加などもあり、非常に限られた中での計画となった。



News　Digest　新型コロナ対策事例マップより

8／1～16 日までの感染者数を四国 4 県と東京都、大阪府とを比較する。四国 4 県の感染者数は非常に少なく、三密を避け（県庁所在地には立ち寄らない）感染対策を徹底することで四国遍路が可能と判断した。今回は 5 日間で 30 札所訪問が目標。

https://www.bing.com/images/search?view より

４．　四国遍路とは（歴史と外国人観光客の動向）

四国八十八か所は、弘法大師が開いた信仰の道場で、巡拝は人生の苦しみを癒し、生きる喜びや安らぎを与えてくれる祈りの旅。弘法大師とともに心身を磨き、八十八の煩悩を一つひとつ取り除き、大自然の中で生かされている喜びを感じることができる。

遍路が盛んになったのは、世の中が安定した時代で、ちょうど江戸時代の初期。約 1400 キロの行程を歩きでは 40 日から 50 日、自転車で 2 週間ほどかかる。最近は下のグラフにあるように外国人観光客も多く、多くの国から四国を訪れ、海外にも四国遍路が発信されている。

表１

表２

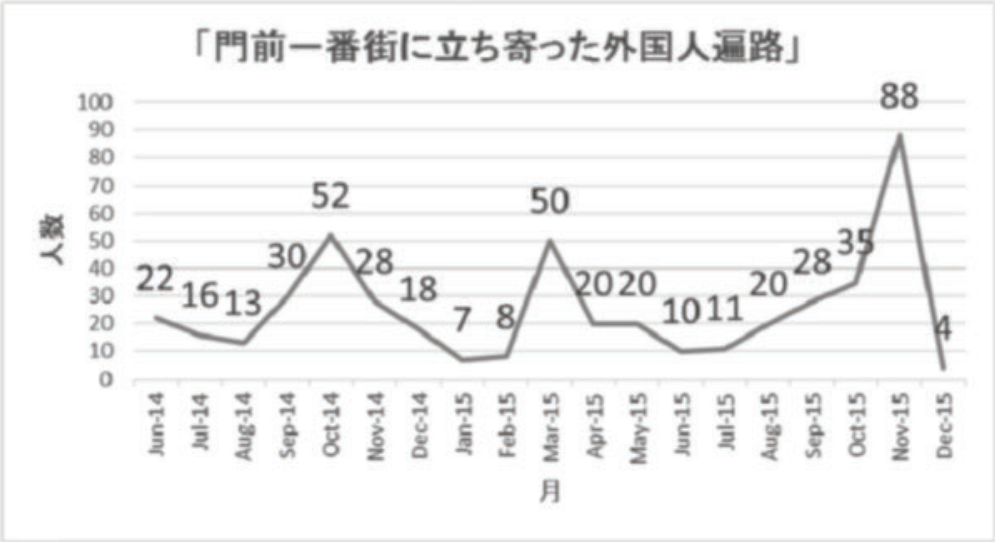


表3

https://www.ecpr.or.jp/.pdf/.ecpr37/32-36.pdf より一部抜粋

５．印象に残った札所とお遍路、さまざまな出会い

○22 番札所　平等寺（徳島県阿南市新野町秋山）

YouTube で 24 時間本堂をライブ配信している住職の谷口さん（朝日新聞 2020 年 7 月 22 日「ひと」欄掲載）のことを知りメール連絡。朝 6 時からのお勤めにご一緒させていただき、仏の教えについて学ぶ。古から続くお寺の風景と配信設備とのコントラストが印象的であり、徳島の山間にある古寺と世界がこのような形で繋がるのかと考えさせられた。

平等寺でのお勤め

○34 番札所　種間寺（高知市春野町秋山）

早朝の種間寺で台湾からの留学生 4 名の方と交流でき、習い始めた中国語で交流をはかることができた。

○35 番札所　清瀧寺（土佐市高岡町）

今治で ALT をされているアメリカとドイツの女性の方々と会話を楽しみ、豊かな緑と澄んだ空気の中で英語とドイツ語を駆使して互いの文化について話をし、新型コロナの困難な状況下での今後についても意見交換できた。

清瀧寺での出会い

○45 番札所　岩屋寺

（愛媛県上浮穴郡久万高原町）

本堂までの長い山道。高松から来られた老夫妻の方から遍路の話を伺いながら登る。

自然と笑顔がこぼれ、交流が深まっていく。

○今治市内（54 番～59 番札所（58 番除く））

58 番南光坊は歩き遍路。

54 番から 59 番までは自転車で回った。地元の人たちに道を教えていただいたり、途中で冷たいお茶のお接待などもいただきながら、世界遺産登録を目指す四国遍路の歴史と文化、それを支える地域住民の温かさにも直に触れることができた。

↑　今治市内、自転車遍路

屋外での活動が今後増えると推測

↑24 番札所最御崎寺

納経所でのマスク着用は必須

６．まとめ

新型コロナウィルスで世界が大きく変化し、With コロナとして社会状況の変化に対応していかなければならない。しかし、その中でも変わらないもの、守り続けなければならない伝統もある。

5 日間で四国一周 30 か所の遍路を終え、あとは県庁所在地周辺のお寺と香川県内の数か所のお寺を残すのみである。逆打ちの今年中にすべてのお寺参りを終える予定であり、終わるころには今までよりドイツ語も中国語も上達していることだろう。そして刻一刻と変化している新型コロナを取り巻く状況にも柔軟に対応していっていることだろう。

臨時休業期間中に一度はやる気を失っていた私が逆に自分を見つめ直し、新しい発見をし、学びに変え、その後実行に移して今なお継続中である。まだ 16 年しか生きてきていない私の人生にとって今回の臨時休業、新型コロナウィルスによる劇的な変化が、今後大きな意味を持つことになる人生に変えていきたい。

後ろ向きに物事をとらえるのではなく、常に前を向いて、新しい可能性に向かって進んでいく。まだ行っていない札所でまた新しい出会いや発見、そして触れ合いが待っていることと思う。そして新型コロナが落ち着いたときに、今回の経験を糧に満を持して「日本人」として豊かな教養を身に着けた状態で世界に飛び出していきたい。

７．今後の課題

新型コロナウィルス状況下での変化や新しく取った対応などを、各札所でアンケート調査を行い、四国八十八カ所での変化についてまとめていきたい。

参考文献

・『四国遍路』辰濃和男（岩波書店、2001）
・『四国遍路を世界遺産に』五十嵐敬喜（ブックエンド、2017）
・『弘法大師に親しむ』川崎一洋（セルバ出版、2014）
・『四国遍路と世界の巡礼』四国遍路と世界の巡礼研究会
（法蔵館、2007）
・『四国八十八か所ゆとりの旅』岩野裕一
（ブルーガイド、2017）
・『香川大学教育学部　研究報告　第 1 部第 147 号』香川大学教育学部（香川大学教育学部、2017）
（四国遍路とそのコミュニティにみられる心理療法として機能）

参考資料

・News　Digest　新型コロナ対策事例マップ
https://newsdigest.jp/pages/coronavirus/

・徳島大学教養教育院　モートン常慈先生
https://www.zeiri4.com/c_1076/n_607/
https://manabi-japan.jp/special-interview/20180522_2934/
https://www.ecpr.or.jp/.pdf/.ecpr37/32-36.pdf
・（一社）四国八十八カ所霊場会
http://88shikokuhenro.jp/
・四国遍路地図
https://www.bing.com/images/search?view
・朝日新聞（2020．7.22）

感染症に負けないまちづくりを目指して

大手前高松高等学校２年　岡　千嘉

1. コロナ禍と私

今年の初め、国内で新型コロナウイルス感染者が出たというニュースを聞いても私には他人事だった。マスクの品薄、緊急事態宣言発令と休校、さらには感染者が１万人越えの4 月中旬になってもまだ、マスメディアは騒ぎ過ぎではないかと思っていた。だが第二波到来ともいえる現在、都市のみならず地方でも医療崩壊、経済的打撃、学生の苦境など多くの問題に直面し、社会全体が疲弊しているのを感じている。こうした中、市民の「しあわせ」や「ゆたかさ」が揺らぎ始めてはいないかが気に掛かった。私は将来、市民生活や福祉に関わる仕事がしたいと思っている。福祉とは、全ての市民に最低限の幸福と社会的援助を提供するという理念を指す。そこで私は、感染症に負けない『福祉のまち　香川』を作っていくための方法を考えてみた。

2. コロナ禍で見えた市民生活における問題点と私の提案

感染者が急激に増加している首都圏と比べると、香川県はまだ感染者数が少なく、危機的状況ではないとも言える。しかし、小さい県であるがゆえに人口密度が大都市に次いで高いため、今後爆発的に増える危険性をはらんでいる。それにより、ひとり親家庭や介護の必要な高齢者や病人を抱える家庭で感染者が増えることも考えられる。感染者の病床確保は第一だが、支援が必要な家族が残された場合、誰が世話をするのかという問題は非常に深刻だ。私の家にも身障者の祖父がいる。自分では身の回りのことがほとんどできないため、介護サービスを受けるなど多くの手助けを受けながら生活している。もしも世話をしている家族の感染や、クラスターの発生で介護施設が閉所になるようなことがあればたちまち困ってしまう。受け入れ先を探している余裕などはない。

そこで、災害時の指定緊急避難場所のように、有事の際には支援を必要とする市民が即時に入居できる公共施設の創設を提案する。

3. 提案の具体的な内容

この施設は、医療・介護機能及び生活機能を備えたものとし、①医療、②介護、③子ども・障がい者向け支援、④リハビリテーション部門、⑤家族と離れて生活をする子どものケアを重点に置いたカウンセリング部門、⑥入所に必要な全ての手続や相談を施設内で一度に行うことのできる行政の総合窓口の６つを、各階ごとに独立させつつも緊密な連携のもとに全体として機能するような施設である。いわば「くらしと医療の総合センター」と言えるものだ。地域医療を「地域住民が抱える健康上の不安や悩みをしっかり受け止め、適切に対応するとともに、広く市民の生活にも心を配り、安心して暮らすことができるよ

う、見守り、支える医療活動でもある」とする概念からみても、「市民を総合的に診る」役割を担っていけると考える。また東部、小豆、西部の各エリアに1施設を置くことが望ましい。

4.提案を実現するうえでの課題と取り組み

⑴　施設の実際の運営にあたってまず大切なのは、人材の確保だ。これは施設運営のみならず、地域医療としての課題でもある。全国的に医療・介護従事者の需給ギャップは非常に深刻で、特に介護現場では5年後に約37万人もの人手不足が起こると予測されている（図表1）。高齢化率が高く、生産年齢人口が減少している香川県においても、人材の確保・育成及び定着が急務である。

2025年に向けた介護人材にかかる需給推計（確定値）　（図表1）

介護人材の需要見込み（ 2025年度）	253.0万人
現状推移シナリオによる介護人材の供給見込み（ 2025年度）	215.2万人
需給ギャップ	37.7万人

（「社会保障クライシス」より）

そのためには、まず多くの人に医療や福祉への興味を持ってもらうことや、働きやすい職場環境の整備を進めていくことが必要だ。例えば

①未経験者を対象とした見学会や体験講座、研修の実施

②高校生が授業の一環として病院や施設等での体験学習やボランティアに参加する機会の増加

③高校における看護科、福祉科の増設

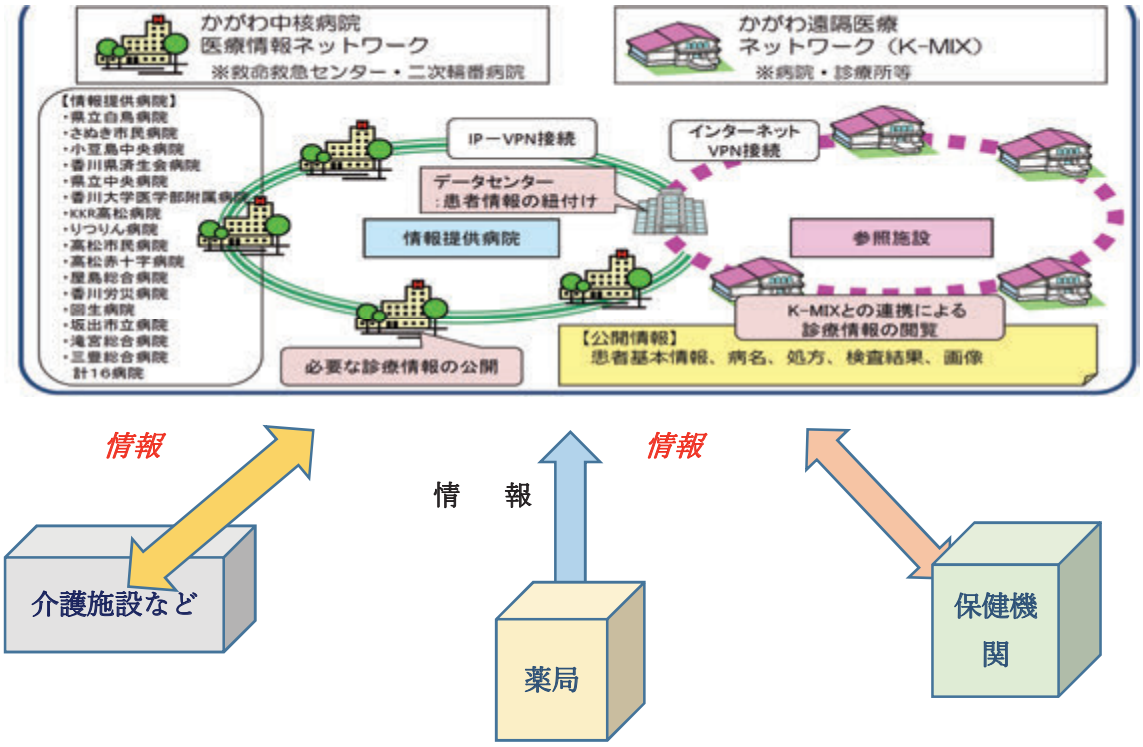
④主婦や子育て世代が働きやすいような時間短縮勤務の推進

⑤外国人労働者が地域社会に定着するための支援の充実

などに取り組んでいく。①、②では、これらを通して仕事の内容を理解してもらい、就業希望者には資格取得のための助成及び就業援助までの一貫した支援を行う。⑤は、県内でも常勤職員の6割以上が外国人スタッフという介護施設もあるなど、今後さらに外国からの人材供給を求めることは不可欠となっており、資格取得支援や日本語研修など、外国人が働きやすい仕組みと環境の整備をさらに進めていくことが必要だと考える。

⑵　次に、スムーズに入所でき、同時に各利用者に必要なサービスを遅滞なく提供するために必要な情報を、即時に共有可能とするシステム作りも重要だ。香川県は地域医療の充実を目指し、日本初の全県規模となるオープンで利用し易い「かがわ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)」を 2003 年に導入、現在は「K-MIX＋」に発展させ(図表 2 参照)、医療機関同士がネットワークで結ばれることで患者の情報を互いに共有できるようになっている。また、このネットワークを活用し、データを共有しながら TV 会議によるコミュニケーションをとることを可能にした「電子カルテ機能統合型 TV 会議システム（ドクターコム)」も開発され、遠隔医療連携のリアルタイム性の確保を可能にしただけでなく、感染症対策としても有効なものとなっている。私は、これらのシステムをさらに発展・統合させると同時に、介護サービス事業所、薬局、保健機関なども包括したものとし、県全域に普及させていくことを提案する。また全ての機関同士が情報を相互に提供できるようにすることで、迅速な意思決定と対応が可能となり、利用者が個々に応じたケアを速やかに受ける手助けになると考える。

K－MIX+（かがわ医療情報ネットワーク）　（図表 2）



5. まとめ

今回の新型コロナウイルスが終息したとしても、過去 20 年間に SARS や MERS が流行したように、新たな感染症が発生する可能性もある。感染症そのものが存在することを前提として、福祉・医療を破綻させないための仕組み作りを、国に頼らず自治体独自に進めていくべきだと考える。

新たな施設建設には大きな財政支出を伴う。香川県は新型コロナウイルス感染症対策のため、8 月時点で約 276 億円が予算に計上されており、将来県民や企業の負担増につながる恐れのある支出には慎重にならざるを得ないだろう。だが「感染症に負けないまち」をつくることで、経済の停滞を防ぎ、市民のくらしを守っていけるはずだ。これは感染症のみならず、災害時にも言える。長期的な視野に立って取り組んでいくことを期待したい。

また、緊急時にはスピード感が必要だ。小さい県だからこそ、強い結束で素早い始動が期待できる。同規模都市の先駆的なモデルケースとして全国に発信していきたい。

災害に遭ったことも不便な生活を強いられたこともない私は、普通に暮らせていることのありがたさに初めて気づいた。福祉とは「ふだんの　くらしを　しあわせに」することでもあると、祖父の世話をしてくれている方から聞いた。祖父を見守るそのまなざしはいつもやさしい。私も、そんなやさしさを持って、普通の毎日がいつも通り続いていくための手助けができる人になれるように、日々の生活の中で自分に出来ることを見つけて実践していこうと思う。

［参考文献］

- 「社会保障クライシス」　野村総合研究所　山田謙次著
- 「地域医療テキスト」　医学書院　　自治医科大学監修
- 「香川県 HP」より
  - ・かがわ医療情報ネットワーク（香川県医療情報総合サイト）
  - ・新型コロナウイルス感染症対策（令和 2 年度 8 月補正予算）について

作 品 の 講 評

香川大学法学部高校生懸賞論文２０２０　総評

香川県教育委員会教育次長（兼）政策調整監　　井元　多恵

今年度の懸賞論文のテーマは、「新型コロナウイルスにまつわる社会状況の変化について考える」でした。

このメインテーマのもと、「学校臨時休業期間はあなたにとってどのような意味を持っていたか」というテーマに 51 点、「将来の地域医療・福祉・行政を考える」というテーマに 57 点、合計 11 校から 108 点の応募がありました。

これまでに経験したことのないコロナ禍の中で、高校生の皆さんが社会の状況をどのように受け止め、何を感じ、どう考察したか。

学校の臨時休業期間についての論文からは、臨時休業という一見閉塞した期間に、高校生の皆さんが、アンテナを高く張り、高校生らしい感性を研ぎ澄ませ、それぞれに自由な思索を拡げていたことをうかがい知ることができ、頼もしく、感銘を受けました。コロナ禍を自分はどう生きるかについて内省を深めたもの、教育格差について論述したもの、置かれた状況下での自分なりの挑戦など、独創的な作品の数々は甲乙つけ難く、審査は難渋しました。

また、将来の地域医療・福祉・行政について論述した入賞作品は、いずれも高校生らしい視点や体験をもとに、地域の実情がよく調査・分析されており、説得力のある論理展開で、建設的な提言につなげられていたことを評価したいと思います。

今回は 1 年生の応募、入賞が多く、今後が楽しみです。これからも、論文を書くという経験を通して、論理的思考力の強化にしっかり取り組んでいただくことを期待します。

最優秀賞「メディア・リテラシーの重要性の高まり」

四国新聞社広告局長兼西讃支社長　木原　光治

新聞記者という情報伝達者をやってきて 40 年余り。高校 1 年生のこの論文であらためて記者の原点を思い知らされた。西さんありがとう。そしておめでとう。

一読したあと、記者魂の琴線が大きな音をたてて全身を走った。「情報源」「経路」の確認に「5W1H」の冷静な分析。西さんが指摘するこのキーワードは、私が後輩記者に常に言ってきた「裏を取れ」の簡潔な説明そのもの、まさに記者のイロハだ。わかりやすいこの論文が、記者の私だけでなく、他分野の審査員にも評価されたことがうれしい。

何がいいか。メディア・リテラシー、つまり「情報の真偽を見極める力」を身につけるため、提案を二つに絞ったことだろう。「フェイクニュースの特徴を知ること」と「情報発信者の姿、意図を汲み取ること」。この手段に「5W1H」を使う論理展開が素晴らしい。曖昧な情報源からインターネットという経路を介し、危機感を煽る内容が、善意の拡散で広がる。これをトイレットペーパー品薄騒動を例にフェイクニュースの流れを分析し、さらに SNS の誹謗中傷による女性プロレスラーの自殺という悲劇を取り上げ、目を背けてはならないと説く。胸に響いた。

新聞は幸い、各種調査でその発する情報は「最も信頼できるメデイア」という評価を受けている。その根源はどんな記事であってもすべて確認作業をすること。これは特ダネであっても、短いお知らせ記事であっても同じ。情報の送り手、受け手としての責任、これが瓦版の時代から新聞が生き残ってきた所以だが、今は一億総「発信者」「受信者」になり得る時代。しかもコロナウイルスが全世界を覆う不安な世相。

だからこそ、西さんのように若い世代が、情報と正しく向き合う能力を身につけていくことが大切だ。この論文がその手引きなってくれれば、と願っている。

優秀賞「「自覚」と「変革」～学校臨時休業期間に考えさせられたこと～」

香川大学　理事・副学長　川池秀文

観音寺第一高等学校の田尾朱莉さん、優秀賞の受賞おめでとうございます。

今回の論文の審査に当たりましては、「高校生らしい主張のある論文であるか。」という視点を重視したところですが、この受賞作品の「自覚と変革」は、新型コロナウィルス感染の特徴や社会に与えた影響、課題について、よく考察され、恩師や父親との心のふれあいから、高校生らしく自らの心情を率直に述べられております。

特に、ウィズコロナの危機的な状況、ネット社会の中で、同世代の若者たちのこれからの生き方として、自らの「謙虚さ」と他者への「思いやりの心」の必要性を強く主張されていることについては、問題の本質をよく理解し、明解で説得力のある、共感できる提案であると思います。

現在、このコロナ禍で社会の価値観が「個人重視」から「共同体の価値」へと大きく転換されようとしております。

田尾さん、このような時こそ、自ら考え、自覚された「謙虚さと思いやり」の心を、これからの人生の糧として大切にされ、さらに、変革に向けて、進んで行かれることを願っております。

「自覚と変革」、田尾さんのこれからの活動と明るい未来に期待いたしたいと思います。

優秀賞「言葉のつながり」

香川経済同友会特別幹事　竹内　麗子

観音寺第一高校の平井萌花さん、優秀賞受賞、誠におめでとうございます。

今年はコロナ禍に明けコロナ禍に暮れようとしています。そのような状況下において、高校の休業や、オンライン授業が進む中、平井さんは、常日頃、コミュミケーションを、取りにくい友人達と、コロナ禍の中、SNS で繋がることにより、お互いの理解度を深め、日常的な人間関係の悩みや、苦しみを共有・克服し、更に交際範囲を拡充して、不安を自信へと繋げていった彼女のスキルに敬服致しました。

コロナ禍は、世界中に、大きな社会変化を起こしています。コロナ禍により非常に苦しい思いをしている人達増加しています。新型コロナウィルス感染者数がパンデミック状態にあり、その中でも青少年への影響は大きいものがあります。既に 2020 年度の小中校生の自殺者数が 68 人に達しました。これは前年度比 86%増です。高校生を加えると更に増え 240 人余りになります。

コロナ禍時代における今、誰もがつらい立場に置かれているがゆえに、「人生の本質とは何か」ということに向き合える時間が増えつつあります。そのような日々の中で、多くの若者達が、より内なる心と向き合い、友人たちと共有していることを、平井さんの論文から教えられました。

各々がアイデンティーを大切にし、チャレンジ精神を持って、共感ファンづくりをすることで、100 年に一度の、パラダイムシフトが起きている先を読みとり、思いを紡ぎ、友人に繋ぎ、共感力を醸成し、新しい世界の構築を加速化させていくのだろうと思います。

やっと、コロナワクチンの接種が始まりましたが、まだまだ、感染防止は万全ではなく、辛い時代が続くと思います。しかし、新しいツールで、社会に蔓延する不安を自信に変え、共感を醸成させると言う、未来を生きる若者たちの力に、大きな期待とエールを贈り続けたいと思います。平井さん、重ねておめでとうございます。

優秀賞「学校は何のためにあるのか」

丸の内法律事務所　弁護士　植野　　剛

溝渕莉紗さん、優秀賞の受賞おめでとうございます。

今年は、新型コロナウィルスの影響で、かつて経験したことが無いような大変な１年でした。学校は休校となり、新入生は、期待に胸を膨らませて学校へ入学したにも関わらず、学校で新たに友人を作る機会を奪われてしまいました。

そのような中で、溝渕さんは、学校そのものを見つめ直し、「学校は何のためにあるのか。」という根本的なテーマを掲げて論文を書いて下さいました。そして、これまで学校の授業で行われてきたような、あらかじめ用意された問いと答えを教わるような学び方ではなく、「自分たちなりの問いを立て、自分たちなりの仕方で、自分たちなりの答えにたどり着く」学びが大切ではないかとの答えを導き出しています。

このような考えは、いずれ社会に出て行く高校生にとって、非常に大切な視点だと思います。何故なら、物事というのは、全て答えが１つだとは限らないからです。また、人から教えてもらった答えが、常に正しいとも限りません。人から学んだことだけをただ何も考えずに実行することは、とても簡単かもしれません。しかし、自分で考えて自分なりの答えを導き出す。このことこそが今後、社会に出て活躍するために必要な視点であり、休校という非日常の中で、このような視点に気付くことのできた溝渕さんの感性は素晴らしいと思います。溝渕さんの今後の益々の活躍を期待しています。

香川大学法学部高校生懸賞論文 2019　受賞作品

最優秀賞

「家庭の貧困による子どもの権利侵害について」
香川県立高松西高等学校 3 年　　藤原　璃子

優秀賞

「遊びから考える子どもの権利」
香川県立観音寺第一高等学校 1 年　　藤村　小桜

「四国の電車が生き残るために必要な改革の提案」
香川県立観音寺第一高等学校 3 年　　礒野　滉大

奨励賞

「食事から見る子供の権利」
香川県立高松高等学校 1 年　　笹原　佳織

「子どもも親も笑顔になれる社会の実現のために」
香川県立観音寺第一高等学校 1 年　　遠山　翔音

「高校生の立場から考えるいじめ問題」
香川県立高松高等学校 1 年　　岡野　明莉

「安全、便利、安心な社会へ」
香川県立観音寺第一高等学校 1 年　　真鍋　光稀

「新しい交通システムについての提案」
香川県立丸亀高等学校 3 年　　守屋　拓海

◇受賞作品の詳細については、香川大学法学部 HP をご覧ください。

https://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_jl/

KAGAWA UNIVERSITY

香川大学法学部
高校生懸賞論文2019

最優秀賞	１名（盾、図書カード５万円分）
優 秀 賞	２名（図書カード３万円分）
奨 励 賞	若干名（図書カード５千円分）

１応募資格

香川県内の高等学校に在学中の者

２論文のテーマ

次のテーマから１つ選んでください。タイトルは自由です。

A　子どもの権利が尊重される社会のために

B　香川県における公共交通機関のこれから
（香川県教育長より出題）

３応募方法・その他

法学部ホームページ（https://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_jl/）を参照してください。

締　切
2019年
9月12日（木）
17：00必着

問い合わせ先
香川大学法学部資料室「高校生懸賞論文2019」係
代表電話
087－832－1744（平日9時から17時まで、8月10日（土）~18日（日）は夏季一斉休暇のため、すぐにご返事できません。あらかじめご了承ください）
E-mail:kenshoronbun@jl.kagawa-u.ac.jp
（このメールアドレスへの特定電子メールの送信を拒否いたします）

主催　香川大学法学部
後援　香川県、香川県教育委員会、高松市教育委員会、香川県弁護士会、四国新聞社、香川大学法学会、香川大学法学部後援会、四国グローバルリーガルセンター

香川大学法学部県内高校生懸賞論文 2018 受賞作品

最優秀賞

「私が目指す保育士」

香川県立観音寺第一高等学校１年　　吉政　瑠夏

優秀賞

「観光業で役立つ SNS」

香川県立観音寺第一高等学校１年　　吉田　智稀

「のめりこむ恐怖」

大手前丸亀高等学校２年　　西山　花

「真のグローバル化へ」

大手前丸亀高等学校１年　　結城　伶菜

奨励賞

「SNS とうまくつき合うために」

香川県立観音寺第一高等学校１年　　石原　舞侑

「安心・安全に人とつながるには」

香川県立観音寺第一高等学校１年　　合田　小春

「私たちの闘病生活」

香川県立観音寺第一高等学校１年　　津田　優沙

「私たちの未来のために」

香川県立観音寺第一高等学校１年　　近藤　凪紗

「以心拡心」

香川県立丸亀城西高等学校２年　　田口　千夏

「今増え続ける SNS トラブルについて」

香川県立観音寺第一高等学校１年　　藤田　史佳

「SNS の見方」

香川県立観音寺第一高等学校１年　　大西　純平

「SNS を通して見える未来」

大手前丸亀高等学校２年　　コレースニク華梨奈

「私たちが SNS と上手く付き合うために」

香川県立高松西高等学校１年　　元永　可織

「外国人が安心して日本の医療を受けるためにできること」

香川県立観音寺第一高等学校１年　　村上　華音

◇受賞作品の詳細については、香川大学法学部 HP をご覧ください。

https://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_jl/

KAGAWA UNIVERSITY

香川大学法学部 高校生懸賞論文2018

最優秀賞	１名（盾、図書カード５万円分）
優 秀 賞	２名（図書カード３万円分）
奨 励 賞	若干名（図書カード５千円分）

１応募資格

香川県内の高等学校に在学中の者

２論文のテーマ

次のテーマから１つ選んでください。タイトルは自由です。

A　SNS と私たち

B　グローバル社会の進展のなかで、あなたはなにを目指すのか（香川県教育長より出題）

３応募方法・その他

法学部ホームページ（https://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_jl/）を参照してください。

締　切
2018年9月13日（木）17：00必着

問い合わせ先
香川大学法学部資料室「高校生懸賞論文2018」係
代表電話
087－832－1744（平日9時から17時まで。8月11日（土）~19日（日）は夏季一斉休暇のため、すぐにご返事できません。あらかじめご了承ください）
E-mail:kenshoronbun@jl.kagawa-u.ac.jp
（このメールアドレスへの特定電子メールの送信を拒否いたします）

主催　香川大学法学部
後援　香川県、香川県教育委員会、高松市教育委員会、香川県弁護士会、四国新聞社、香川大学法学会、香川大学法学部後援会、四国グローバルリーガルセンター

香川大学法学部県内高校生懸賞論文 2017 受賞作品

最優秀賞

「安心安全な東京オリンピックへ」

香川県立観音寺第一高等学校１年　横関　あかり

優秀賞

「海外のフィルターを通して」

高松市立高松第一高等学校２年　岩瀬　七虹

「復活、そしてこれから。」

香川県立三木高等学校１年　多田　壮汰

「2020 年では終わらせない東京オリンピック」

香川県立観音寺第一高等学校１年　田井　涼子

奨励賞

「『農業』を柱とした西讃地区の地方創生について」

香川県立観音寺第一高等学校１年　秋山　陽色

「日本一、子どもを産みやすく、育てやすい県、香川県」

香川県立観音寺第一高等学校１年　高橋　里帆

「『どこでもドア』を作ろうー地方とすべてを繋ぐ ITー」

大手前高松高等学校２年　中山　創太

「香川県の未来は、殺処分される動物にかかっている?！」

大手前丸亀高等学校２年　森安　寧々

「おもてなし～言葉の壁～」

香川県立観音寺第一高等学校１年　森　莉子

「私たちがつくる東京オリンピック」

大手前高松高等学校１年　窪　舞

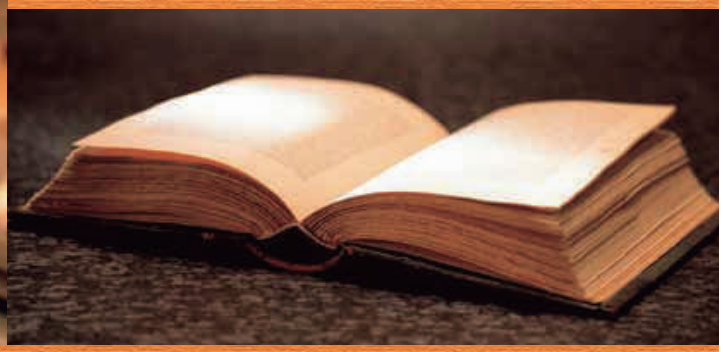
◇受賞作品の詳細については、香川大学法学部 HP をご覧ください。

https://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_jl/

KAGAWA UNIVERSITY

香川大学法学部 高校生懸賞論文2017

最優秀賞	１名（盾、図書カード５万円分）
優 秀 賞	２名（図書カード３万円分）
奨 励 賞	若干名（図書カード５千円分）



１応募資格

香川県内の高等学校に在学中の者

２論文のテーマ

次のテーマから１つ選んでください。タイトルは自由です。

A　魅力ある街づくり・地方創生に向けてなにができるか

B　君たちの東京オリンピックとは？（四国新聞社編集局より出題）

３応募方法・その他

法学部ホームページを参照（http://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_jl/）してください。

締　切
2017年9月14日（木）17：00必着

問い合わせ先
香川大学法学部資料室
「高校生懸賞論文2017」係
代表電話
087−832−1744（平日９時から17時まで）
E-mail
kenshoronbun@jl.kagawa-u.ac.jp

主催　香川大学法学部
後援　香川県、香川県教育委員会、高松市教育委員会、香川県弁護士会、四国新聞社、香川大学法学会、香川大学法学部後援会、香川大学四国グローバルリーガルセンター

香川大学法学部県内高校生懸賞論文 2016 受賞作品

最優秀賞

「高校生が政治とどう向き合うかー私たちからの一つの提案」

英明高等学校 3 年　越智　航

優秀賞

「観音寺市の高潮被害に学ぶ今後の対策法」

香川県立観音寺第一高等学校 1 年　松本　三穂

「橋を架ける」

香川県立観音寺第一高等学校 1 年　大山　穂乃海

「『家族革命、生き方革命』from 香川」

香川県大手前高等学校 3 年　眞田　千明輝

奨励賞

「賛成！18 歳選挙権」

香川県立観音寺第一高等学校 1 年　田渕　優

「18 歳選挙権に向けて自分にできること」

香川県立高松商業高等学校 3 年　藤田　葵

「未来を紡ぐ 18 歳選挙権」

高松市立高松第一高等学校 3 年　中村　真菜

「まずは気軽にその一歩を」

香川県立観音寺第一高等学校 1 年　薦田　有加

「これからの家族のカタチ」

香川県立三木高等学校 3 年　多田　有沙

◇受賞作品の詳細については、香川大学法学部 HP をご覧ください。

https://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_jl/

香川大学法学部
県内高校生懸賞論文2016

KAGAWA UNIVERSITY

Legal Mindで世界と繋がる。
香川でみつけよう、未来を。

最優秀賞	１名（賞状、図書カード５万円分）
優 秀 賞	２名（賞状、図書カード３万円分）
奨 励 賞	若干名（賞状、図書カード５千円分）

募集要項

１応募資格

香川県内の高等学校に在学中の者

２論文のテーマ

次のテーマから１つ選んでください。タイトルは自由です。

A　18歳選挙権のもとで、政治とどう向き合うか

B　震災と地域社会・行政の課題

C　これからの家族制度（香川県教育長より出題）

３応募方法・その他

法学部ホームページを参照（http://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_jl/）してください。

締　切
2016年9月15日（木）17：00必着

問い合わせ先
香川大学法学部資料室
「県内高校生懸賞論文2016」係
代表電話
087-832-1744（平日９時から17時まで）
E-mail
kenshoronbun@jl.kagawa-u.ac.jp

主催　香川大学法学部
後援　香川県、香川県教育委員会、高松市教育委員会、香川県弁護士会、四国新聞社、香川大学法学会、香川大学法学部後援会、四国グローバルリーガルセンター

香川大学法学部県内高校生懸賞論文 2015 受賞作品

最優秀賞

「イノベーションを起こすための『若者』」

香川県立高松高等学校２年　植田将暉

優秀賞

「少年の更生に向けて」

香川県立観音寺第一高等学校２年　近藤慶明

「若者が多く、活気のある香川県にするために」

香川県立坂出高等学校２年　田口若奈

奨励賞

「憲法という守り神」

高松市立高松第一高等学校２年　中村真菜

「現代社会における少年法の矛盾」

香川県立高松東高等学校１年　木村亮太

「少年法の改正論議と存在意義」

香川県大手前高松高等学校２年　田岡七海

「若者に優しいかがわへ」

香川県立三木高等学校２年　多田有沙

「魅力ある香川県にするために」

香川県立高松桜井高等学校１年　森　文香

◇受賞作品の詳細については、香川大学法学部 HP をご覧ください。

https://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_jl/

香川大学法学部
県内高校生懸賞論文 2015

KAGAWA UNIVERSITY

Legal Mindで世界と繋がる。
香川でみつけよう、未来を。

最優秀賞	1名(賞状、図書カード5万円分)
優秀賞	2名(賞状、図書カード3万円分)
奨励賞	若干名(賞状、図書カード5千円分)

募集要項

1 応募資格

香川県内の高等学校に在学中の者

2 論文のテーマ

次のテーマから一つ選んでください。タイトルは自由です。

(1)私と憲法

(2)少年法／少年非行に関する今日的課題

(3)香川県における若者の定住化

3 応募方法・その他

法学部ホームページを参照(http://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_jl/)してください。

締切
2016年1月31日(日)17:00必着

問い合わせ先
香川大学法学部資料室
「県内高校生懸賞論文2015」係
代表電話
087-832-1744(平日9時から17時まで)
E-mail
kenshoronbun@jl.kagawa-u.ac.jp

主催　香川大学法学部
後援　香川県、香川県教育委員会、高松市教育委員会、香川県弁護士会、四国新聞社、香川大学法学会、香川大学法学部後援会、四国グローバルリーガルセンター